

1983. 5. 26 マグニチュード7.7

# 魔のつめ跡を追う



日本海中部地震の記録

写真は釜谷浜での行方不明者捜索活動

## 八竜町災害概況図

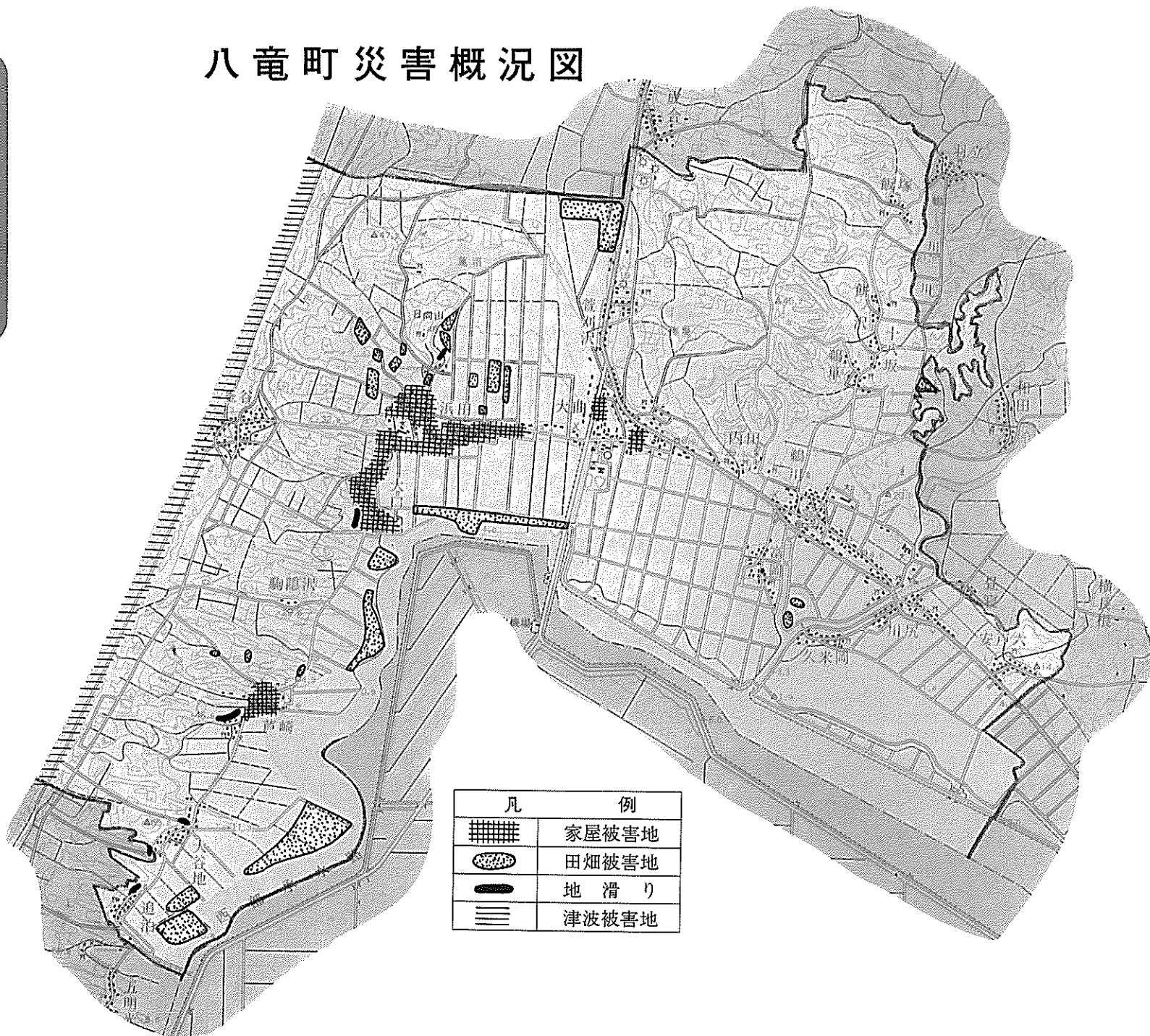


### 発刊にあたって

昭和58年5月26日の悪夢の記憶は、私たちの脳裏から消え去る事のないものであります。その惨状と悲劇を目撃し、その再建に全知全能を傾けた私たちの体験は、永く本町の歴史に止めるべきでありましょう。

「天災は忘れた頃やって来る」の名言をまつまでもなく、この尊くも苦しい経験の子々孫々に伝え、一朝有事の際の警告を残すことは現時代に生きる者の義務と考え本記録集の刊行を企画致しました。皆様の家譜の一冊として有意義に伝承される事を期待してやまぬものであります。

三浦卓



# 目 次

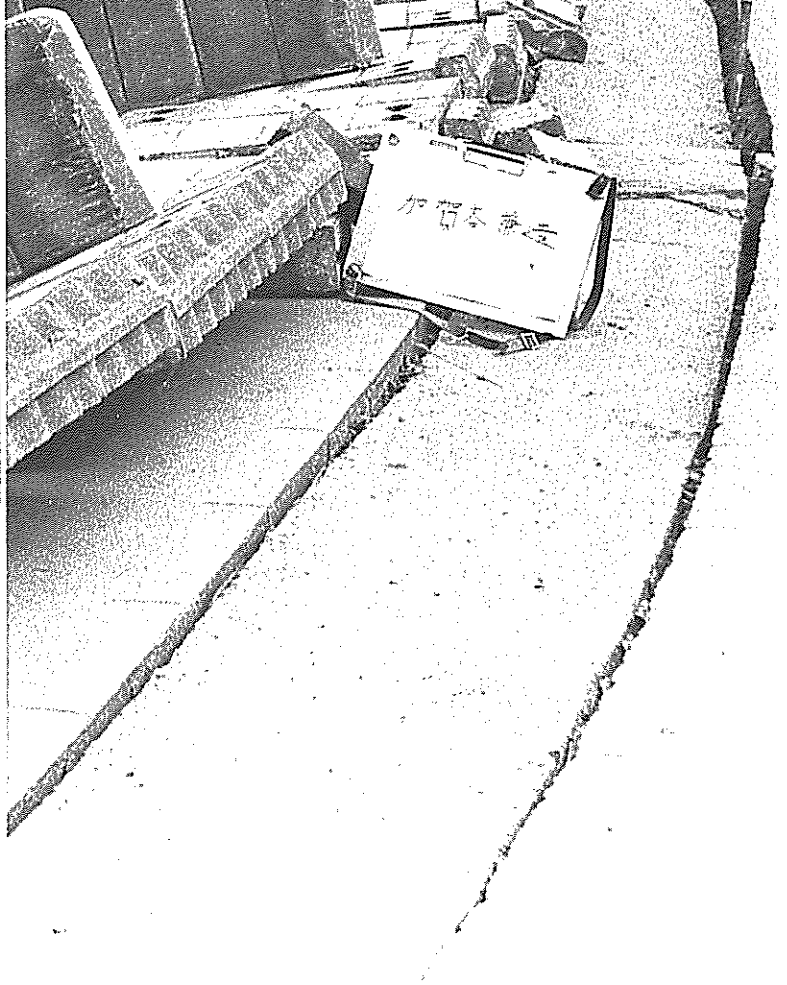
## 被災現場からの報告

住宅・道路	2
八竜海岸	10
産 業	14
公共施設	18
町外から	20
失われた人命・財産	24
本震……そして余震	26
行政の対応	28
地震の教訓	32
各地から暖かい援助	34
当時の紙面から	36
復興の息吹き	40
住民の対応	42
地震対策の実践	46



# 日本海中部地震 (昭和58年5月26日、午後0時0分18秒発生)

震源地 秋田沖西方100km  
震源域 秋田・青森沖南北100~120km 東西60~70km  
大きさ マグニチュード7.7



△道路はいたる所で寸断され、ブロック塀は72カ所で倒れた

△家屋被害は過去の地震の中では最大に及んだ

◁町内の各所で地割れが発生

# 被災現場からの報告

住宅・道路



全壊家屋は134戸に(浜田39戸、大口46戸、芦崎43戸、川尻2戸、鶴川、富岡、大曲、大谷地各1戸)



△浜口地区に全壊が集中  
— 浜田 —

地震による住宅の被害は、町内だけでも全・半壊350戸に及び、被害額は19億3,200万に達した。中でも浜口地区の浜田、大口、芦崎などに被害が集中、被災率は50%以上にのぼった。



四つんばいで  
戸外へ

小野 徳松さん  
(芦崎)

その日は、娘夫婦は会社勤め、孫は幼稚園で、私一人で昼食を済ませ、函館に住む兄からの小包を開こうとした瞬間でした。突然、ドスンという音とともに強烈な上下の揺れでした。まともに歩くこともできず、なかなか前にも進めない状態でしたが、すぐ火気の点検をしました。戸外にやっとの思いで、それも四つんばいになって逃げました。家のきしむ不気味な音だけが続く中で、頭上を気にしながら地面に座り、物干し台につかまって地震の治まるのを待った数分間は何時間にも感じました。この時、若い頃に体験した男鹿地震を思い出しました。震源地に近いせいか縦揺れで、地面に叩きつけられ、悲鳴とともに死んでいった人……ほんとうに恐い出来事でした。

今回の地震で家も取り壊し、親類の倉庫を借りて世話になっている今日この頃です。いくら天災とはいえ、割り切れない気持ちです。

▽30cm以上沈下した家も—芦崎—



△家の形は残っても、内部は壊滅状態—芦崎—

#### 防災一口メモ

震度0（無感）人体に感じない地震計に記録される程度。

震度1（微震）静止している人や、特に地震に注意深い人だけに感ずる程度の地震。

震度2（軽震）大ぜいの人に感ずる程度のもので、戸障子がわずかに動くのがわかる。



階段状に崩壊した三種川堤防道路



農道も各所で寸断された

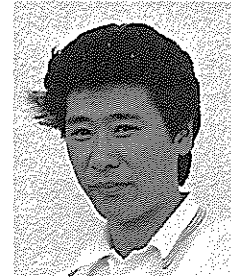


五明光橋の取付道路は一メートルも陥没



水道管が破裂して道路は水びたし





## 心構えの大事さ 知る

関 優 征さん  
(川尻)

5月26日晴れ、その時私は車を運転していました。突然、目まいがしたような気がして車を止め、回りを見たとこ地震に気がつきました。地盤は割れ、家は傾き、道路は陥没し、交通が遮断され、マヒ状態に陥りました。その時これが何日も続いたらいったいどうなるのかと不安でなりませんでした。

小さい時から男鹿地震とか新潟地震とか大きな地震の話聞かされたり、テレビで地震の時の避難訓練を見てきたりしましたが、自分たちには全く関係のないような気がしていました。それが大きな地震を目のあたりに見て、地震の恐しさをまざまざと見せつけられました。このような大きな天災に会ってはじめて、平日頃の訓練、知識の必要性を感じました。この先また起こるかもしれない、このような事態に対し、今回の体験を生かして物心共に耐えていく生活基盤を、しっかりと築いておかねばならないと強く感じました。

### 防災一口メモ

震度3（弱震）家屋がゆれ、戸障子がガクガクと鳴動し、電灯のような吊り下げ物は相当ゆれ、器内の水面の動くのがわかる程度。

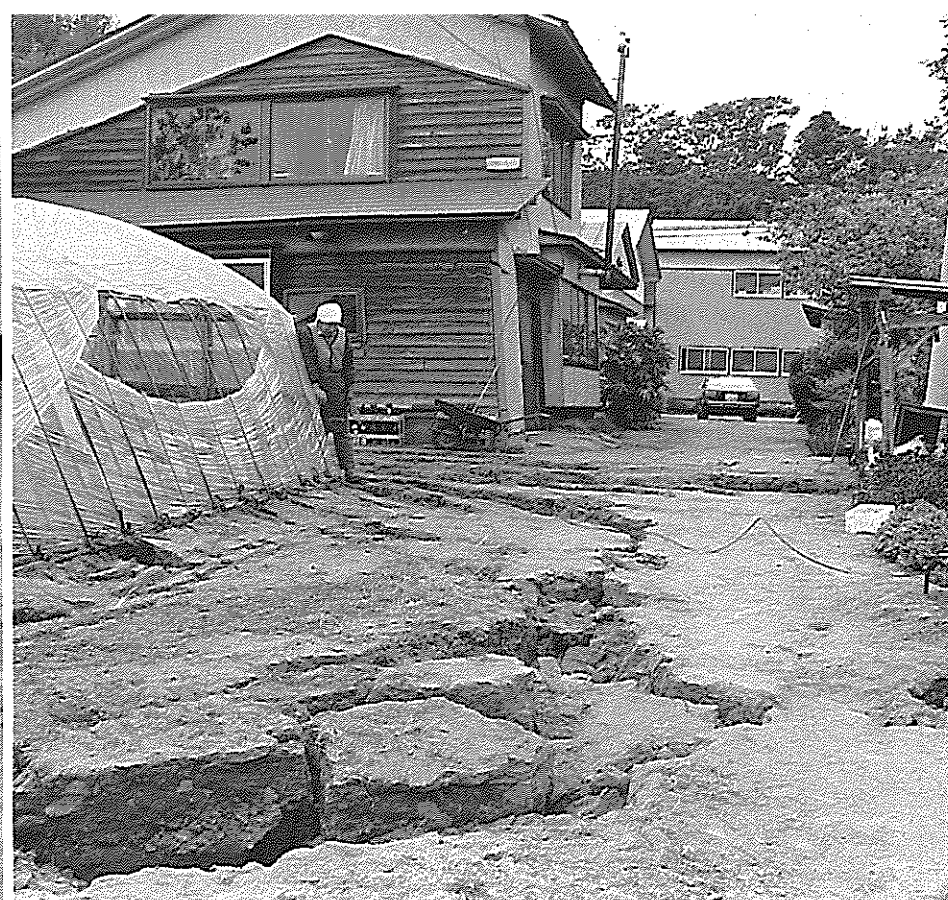
震度4（中震）家屋の動揺が激しく、すわりの悪い花瓶などは倒れ、器内の水はあふれ出る。また、歩いている人にも感じられ、多くの人々は戸外に飛び出す程度の地震。

これが道路が／＼五明光橋付近



無残なつめ跡





家の中は足の  
ふみ場もないほどに

島山 ヨシさん  
(浜田)

青空の広がるポカポカ陽気の昼に日向山の下の畑で帰る仕度をしていました。急にグラグラッと地面が揺れだし、立っている事もできず尻をついてじっと下をむいていました。長い時間を感じました。一斗カンに水をいっぱいくんでおいたのが、どのカンも水が底にちょっぴり残っているだけで揺れの大きさに驚いてしまいました。

気持ちが落ち着くと家が心配になりました。今朝来た道が波打ち、亀裂がはいったりでまるで地獄の橋を渡る思いで一歩一歩足を運びました。途中、傾いた家やへいが倒れているのを見ながらやっとのことで家にたどり着きました。外見は無事のようにでしたが、中は足のふみ場もないほど食器や飾り物がコナゴナになっていました。地震の時家の中にいたら物が落ち、飛び散るたびにあわてふためき、もっとショックが大きかった事でしょう。そう思いこませながら無中で片づけはじめました。



#### 防災一口メモ

震度5（強震）壁に割れ目が入り、墓石・石どうろうが倒れたり、煙突、石垣などが破損する程度の地震。

震度6（烈震）家屋の倒壊は30%以下で、山崩れが起き、地割れを生じ、多くの人が立っていることができない程度の地震。

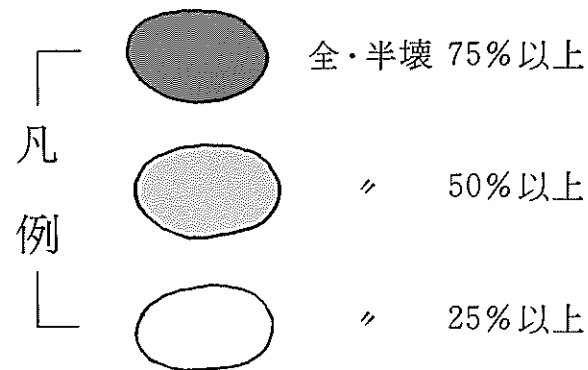
震度7（激震）家屋の倒壊が30%以上に及び山崩れ、地割れ、断層などを生じる。

# 地盤の軟弱地に被害集中

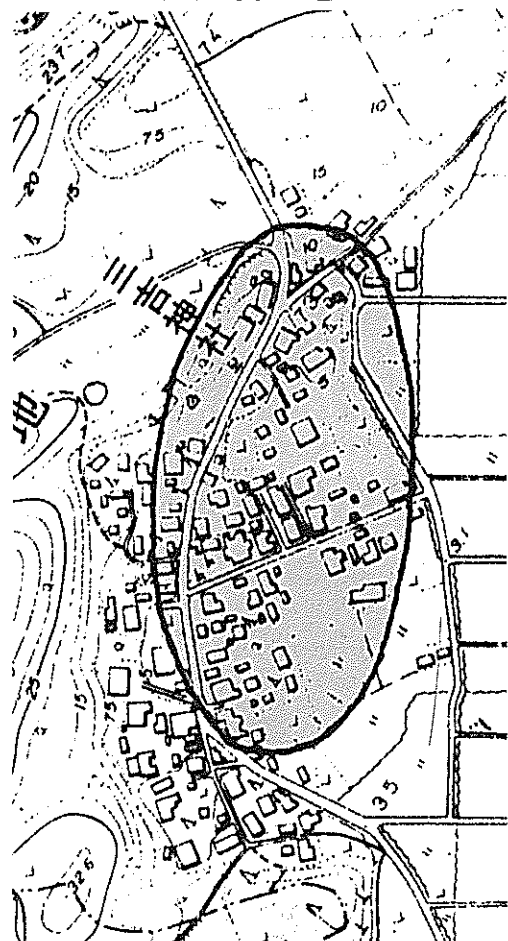
今回の地震の特徴は建物被害がいずれも砂地、軟弱地盤で発生したことで、道路も波打って亀裂を生じ、至る所で陥没した。

敷地内には幾筋も地割れが生じ、全壊家屋は浜口地区を中心に134戸に及んだ。特に、湿地を埋めたたてた所では、砂地特有の液状化現象

が生じて基礎の陥没やき裂が生じ、ことのほか被害を大きいものとした。また、各所でブロック塀の倒壊が相つぎ、水道管の破裂、道路の崩壊と相まって住民生活は根底から覆されました。日本海中部地震の傷手は住民にとって余りにも大きいものであった。

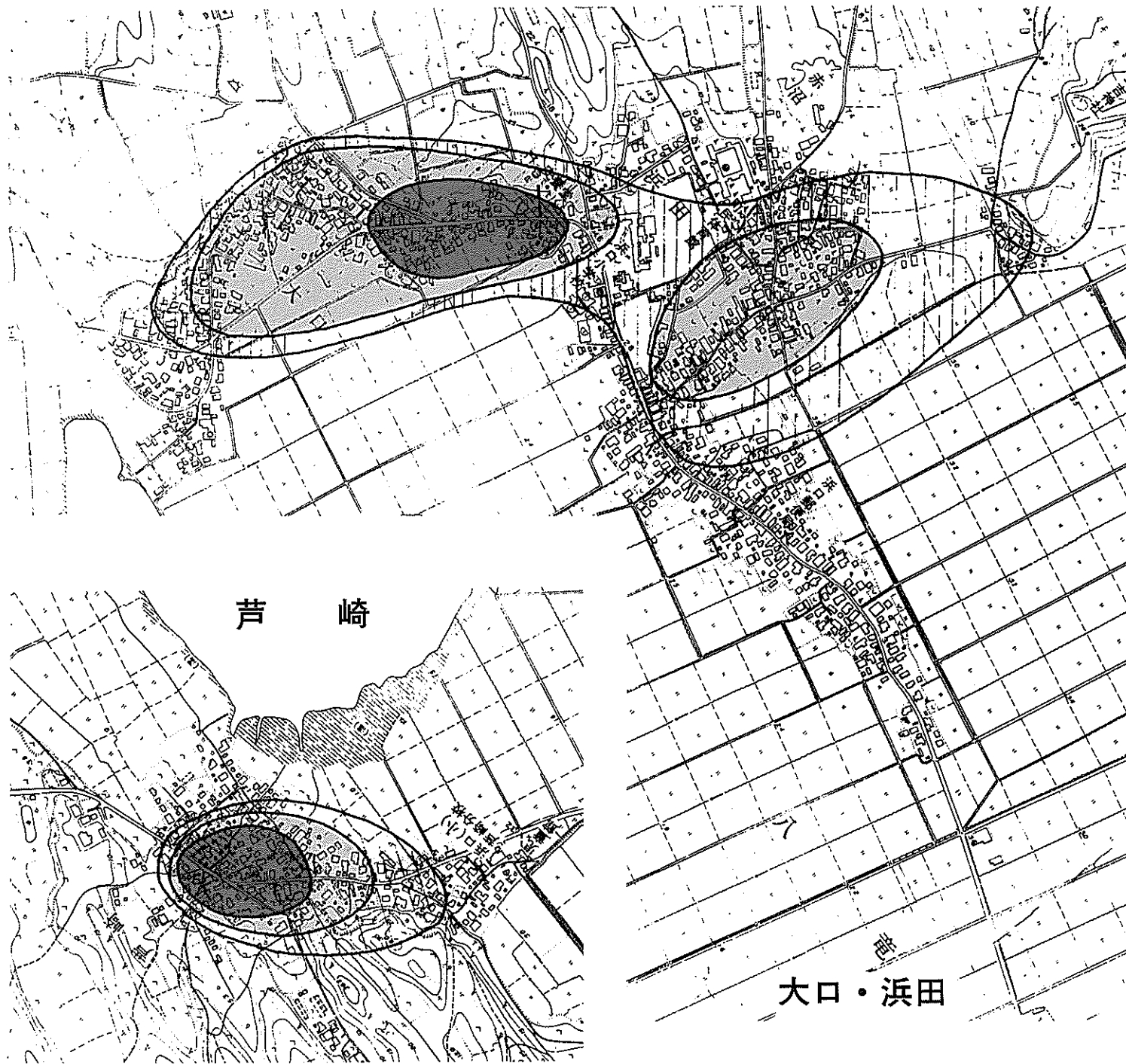


## 大谷地



部落別被害一覧表

部落	全壊	半壊	一部破損	被災率	非住家	死者	重傷	軽傷	備考
安戸六	—戸	1戸	1戸	2.9%	1戸	—人	—人	—人	
川尻	2	1	4	6.1	4	—	—	1	
鵜川	1	2	6	3.2	11	—	1	—	
富岡	1	3	7	15.7	3	—	1	—	
久米岡	—	—	—	—	5	—	—	—	
大曲	1	10	18	15.2	—	1	—	—	
鵜の巣	—	1	—	2.5	—	—	—	—	
十八坂	—	1	—	5.2	—	—	—	—	
餅の沢	—	—	—	—	—	—	—	—	
飯塚	—	—	—	—	1	—	—	—	
萱刈沢	—	—	5	8.6	2	—	—	—	
小計	5戸	19戸	41戸	7%	27戸	1人	2人	1人	
浜田	39	94	124	68.7	75	—	1	—	
大口	46	50	39	64.5	67	—	—	—	
釜谷	—	—	7	4.0	—	4	—	4	
声崎	43	38	21	77.2	74	—	—	1	
大谷地	1	10	17	49.1	15	—	—	—	
追泊	—	5	7	24.4	8	—	—	—	
小計	129戸	197戸	215戸	52%	239戸	4人	1人	5人	
合計	134戸	216戸	256戸	31.6%	266戸	5人	3人	6人	



二階が落ちる程の  
激しい揺れでした

桧森 昭さん  
(浜田)

結納に出かける準備をしていると、急に家が揺れ出しました。最初は地震とは気付かず体の状態が悪くなったのかと思いましたが、そのうち「ミリミリ、ガラガラ」とものすごい音をたてて家が動き、今にも二階が落ちるくらいになりました。あまりのすごさにはだして外に逃げだしていました。外は外で道路は波打ち、電柱は倒れるほどに揺れていました。そのうち、近所の家の窓ガラスがバリバリと割れました。

地震が収まってから家の内外を一巡して見ると、レッスン場は見るとも無残に壊れ、家の周りの基礎も至る所が口を開いていました。訪問先に電話をかけようにも電話も不通の状態でした。家の壊れ方もひどく、外で寝る覚悟で食料の買い出しもやりました。

この家に入ったのが地震の6日前、引越しやら荷物のかたづけで一日とて新しい家でゆっくりする間もなく地震に見舞われてしまいました。

#### 防災一ロメモ

- 地震に備える8つのポイント(その1)
1. 家屋や塀などを点検し、弱い部分を補強しておく。
  2. 家具などが倒れないように金具で固定したり、置き方を工夫する。
  3. 火を使う器具設備の点検と整備をする。また、火気の周りは整理整頓しておく。

# 被災現場からの報告

八竜海岸



津波は標高8.5mの高さまで押し寄せた(釜谷浜)

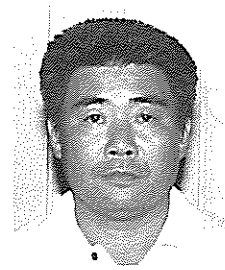


波高5メートルに及ぶ津波は、数回にわたって押し寄せ、重さ4トンものテトラポットを百メートルも押し流した。

津波は大きな波というよりも小山のように盛り上がり、第1波から第2波が押し寄せるまでの数分間、海は数百メートルも干上がった。これらのすべてがわたしたちにとって初めての経験であった。



津波は砂防林をなぎたおし、釜谷部落内にまで入り込んだ。砂丘地背後の凹地には沼ができ、壊れた浜小屋の破片が漂った。人々は津波の恐怖におののき、余震のたびに高台に避難した。



「これが俺の最期」と覚悟

泉 侶 行さん  
(富岡)

地震の直後、津波襲来に備えて長男と漁船の引き揚げをしていた。親類の船を揚げにかかった時、沖合に高波の来るのが見えた。しかしその波の高さが5メートル以上もあるとは思ってもよらず沖の方を見ながらまだ作業をしていたが、波は予想以上に速く、とっさに長男に、逃げろ、と叫びながら夢中で砂防林の方へ走った。5メートルばかり走ったところで、グッと引き込まれるような感じで波に巻き込まれた。まさかあんなにもすごい高波だとは——これが俺の最期だと覚悟したが運が良かったのだろう、松のこずえにつかまって助かった。長男は20メートルばかり走ったところで砂浜の頂にたつて助かった。乗って来たダンプカーは100メートルも流され、メチャクチャに壊れてしまった。

漁業は近年不漁続き、それに追い打ちをかけるような津波被害。漁民にとって、漁業を続けるにしろ、廃業するにしろ将来は決して明るくない。

#### 防災一口メモ

地震に備える8つのポイント(その2)

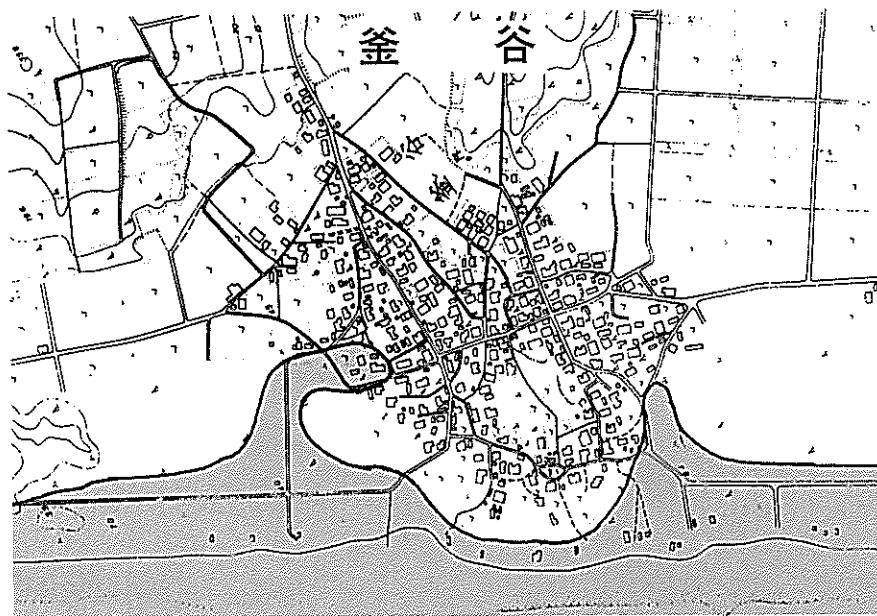
4. 消火器や消火用水を用意し、消火の方法を身につけておく。
5. 救急医薬品を準備し、応急手当の方法を身につけておく。
6. 非常持出品を準備しておく。

# 予期せぬ大津波

その日、釜谷浜では数人の人たちが活漁施設の前で談笑しながら魚の仲買が到着するのを待っていた。

正午、激しい揺れが突然襲った。揺れが収まった後で人々は新潟地震の津波を思い出した。『小さいけれど津波が来る』……心は平静であった。そのとき、沖に白く一直線に光る波を発見。「津波が来た」われ先に自分の船に直行、船のまき上げにかかった。しかし津波は時速400キロメートルという信じがたい速さで海岸にせまり、一瞬のうちに人々を飲み込んでしまった。実に標高8.5m余りに達する大津波であった。津波が去った後は無残な修ら場と化し、同時に4人の尊い命をも奪ってしまった。

## 津波の侵入範囲



日本海



▷海岸から百メートルも流され、メチャメチャに壊れたダンプカー





△押し流された浜小屋は道路を埋めつくした

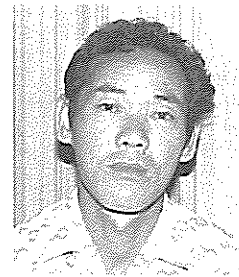


▷津波は以前の景観を一変させた

▽引き波は至る所に高さ2mの“えぐり”を残した。



◁散乱した浜小屋の前でぼう然と立ちすくむ漁民



水の中で光が見えた

近藤文雄さん  
(浜田)

振り向いた時、轟音とともに波は浜小屋を大きく越えて私に襲いかかって来た。その日私は漁のため船で沖に出ていた。地震の事は浜田浜に帰ってから、戻って来た仲間に聞かされて初めて知ったのだった。車で逃げようとして鍵を浜小屋に残して来たのに気づき、取りに行こうとした時に波にのまれたのである。押し流されている間、なぜか気は確かでもう死ぬのかなどと思いながら身をまかせていたが、一瞬水の流れの止まるのがわかった。光の差す方向が見えた時、助かるかもしれないと感じた。足が届かないほどの水の量だったが、夢中でもがいて流木につかまり、はいあがった。海岸の道路が低いせいも、そこには水がたまり、押し流された船や材木が無数に浮かんでいた。私はその上を飛びはねるようには逃げ、ようやく浜の入口の道路まで出て助かった。あの時もしも車の中にいたまま流されていたら、助かっていなかったかもしれない。

### 防災一口メモ

地震に備える8つのポイント(その3)

7. 家族で防災について話し合い、避難場所や避難経路を確認しておく。

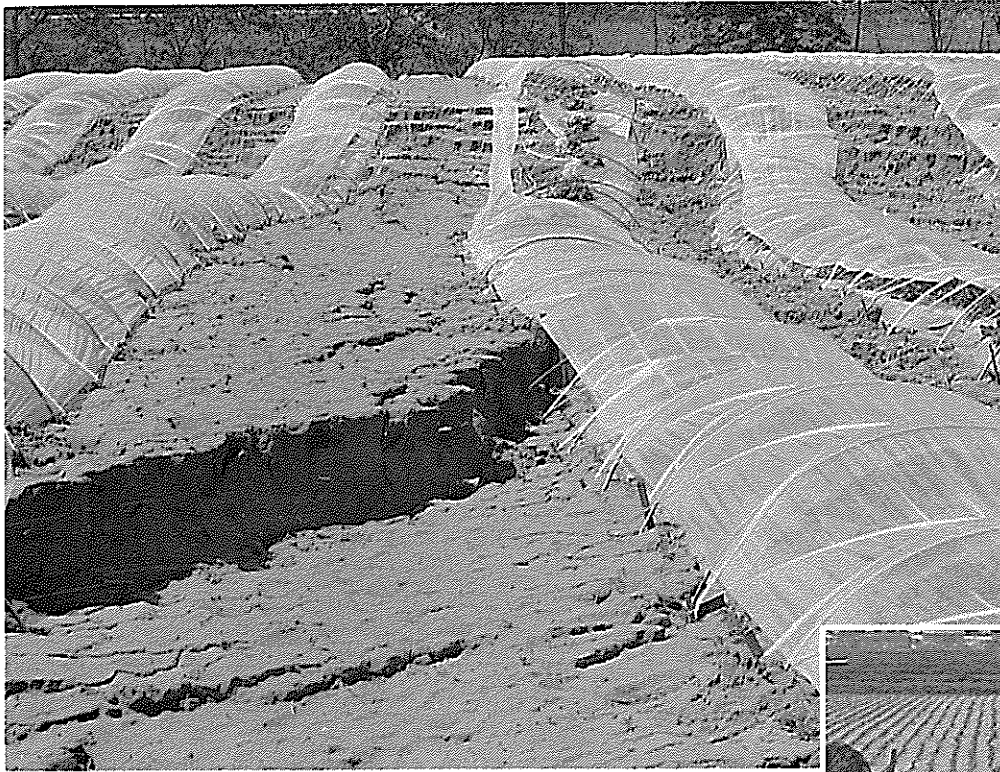
8. 隣近所の人々と協力しあえる信頼関係をつくっておく。

# 被災現場からの報告

産

業





△地震は結果期のメロンにも大打撃を与えた



△水田の至る所で浮稲が発生、全減は33haに及んだ

町産業の基幹である農業は、施設被害で莫大な損失があったものの、農産物被害が最少限に止まったことは不幸中の幸いでした。しかし、土地改良施設の大被害は関係農民に負担を強いる苦悩の種となりました。また、津波は零細な沿岸漁業を壊滅し、広い砂浜はゴミ捨場の惨状を呈し、商店の被害も想像を絶するものとなりました。

▽陥没によって送水管が露出した



商品が棚から  
滝のように

清水美雪さん  
(浜田)

たった数十秒の自然のいたずらだったので。横揺れから縦に揺れが変わったとたん、店の大きな厚いガラスが右側から順に「パリンパリン」と音を立てながら割れ始め、結局一番丈夫だと思っていたガラスがすべて壊れてしまったのです。また、店の商品が棚の高い所から順に滝の様に落ちる様は、今思い起こしても見事だったとしか言いようがないぐらいで、もしあの地震がもう数十秒続いたなら——考えただけで恐しくなります。

あの悪夢の日から三か月、ようやく店内も落ちついてきました。何処からどう片付けたらいいのか、全く見当がつかない位の商品は散乱し、通路さえなかったあの日。私にとって、5月26日は一生忘れることのできない日になりそうです。災害に対して無頓着だった私は、ただ果然と立っていることが精一杯でした。長い人生にはいろいろな災害が起るかもしれませんが、その度、落ち着いて対処できる人間になれるよう努力したいと思います。

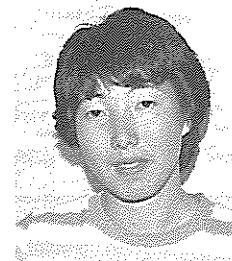
#### 防災一口メモ

非常持出品を用意しましょう。

寝袋、毛布、手袋、下着類、タオル、石けん、救急薬品、ヘルメット、ロープ、ちり紙、ローソク、壊中電灯、トランジスタ・ラジオ、缶詰、ミルク、家族3日分の食糧、飲料水、マッチ、ナイフ、缶切り、預金通帳、印かん、現金など。



活魚施設も壊滅状態(左)



道路は波打ち  
分校もくずれそうに

伊東 あづきさん  
(芦崎)

事務室の窓から見える空は、青く、太陽の光がとても気持ちよさそうだったので、「こんな日はドライブでもしたいね」と話していたら突然窓ガラスが鳴り出し、激しい揺れ。とっさに外に飛び出したが立ってられず、しゃがみ込んだ。道路が波打ち、車は車体がタイヤから離れるくらい大きく揺れた。隣の芦崎分校も建物が今にもくずれそうに前後左右に揺れた。

揺れが治ってからラジオを持って、グラウンドに避難していた分校の子供たちや幼稚園の所へ行き、子供たちにケガがなかったのをひとまず安心した。(このとき、ラジオは犠牲者の悲報を告げており、いかに大きな地震であったかわかった)

これがもし、子供たちの米館後に発生したものであったら……。いつ来るとも知れない災害に対して、幅広い知識と素早い対応を身につけておかなければならないと思った。

#### 防災一口メモ

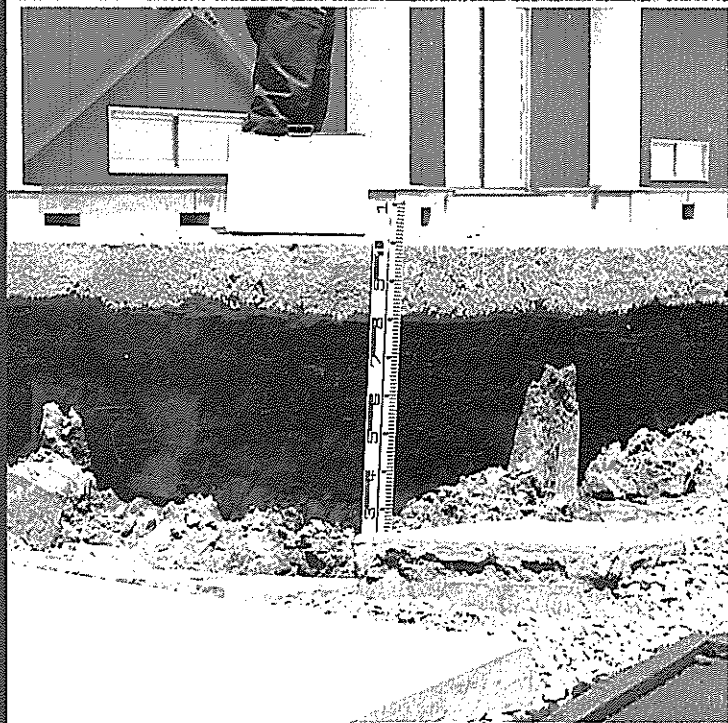
地震の心得10か条 (その1)

- ・まずわが身の安全を図れ——丈夫なテーブル、机などの下に身をかくして、しばらく様子を見る。
- ・すばやく火の始末——過去の例から大地震で怖いのは火災です。地震を感じたらすばやく火の始末をする。

# 被災現場からの報告 公共施設



▷ 浜小グラウンドでも液状化現象が起こった  
◁ 激しい揺れで浄化槽も押し上げられた。



▷ 芦崎地区グラウンドにはいく筋もの亀裂が入った  
◁ 湖小体育館のわきでは地盤が一メートルも沈下した



## 地震による学校等の動態

- 5月26日・小・中学校、授業を急きよ中止。児童・生徒帰宅（湖北小 1:35、浜口小 2:30、芦崎分校 1:30、八竜中 3:00）。
- ・各校（芦崎分校除く）の浄化槽破損のためトイレ使用不能となる。
  - ・給食センター、安全確認のため作業中止。
  - ・浜口公民館トイレ使用不能となる。
  - ・大曲公民館、破損大きく使用危険。
  - ・旧浜口中校舎、破損大きく、浜田児童館と柔道室使用不能となる。
  - ・芦崎地区グラウンド、亀裂が入り使用不能となる。
- 5月27日・湖北小、浜口小、八竜中は1時間目で、芦崎分校は3時間目で授業を終了。
- 5月28日・湖北小、八竜中は臨時休校。浜口小は1時間目で終了。
- 5月29日・学校に簡易トイレ設置（湖北小10棟、八竜中20棟）。
- ・追泊部落運動会中止。
- 5月30日・簡易トイレ設置（浜口小9棟、浜口公民館3棟）。
- ・各学校とも平常授業を行う。
  - ・学校給食、始まる。
  - ・浜田児童館、浜口公民館へ引越。



▷グラウンドに避難した子供たち

## 公共施設被害一覧表

施設名	主な破損箇所
湖北小学校	浄化槽、土台、給排水施設、貯水槽室
芦崎分校	階段のおどり場
浜口小学校	給排水施設、浄化槽、体育館、土台
八竜中学校	側溝、浄化槽、プール、体育館、フェンス
浜口公民館	浄化槽、便所、渡り廊下、管理人室
大口分館	ホール床、便所
大曲分館	土台、ホール床、玄関、前庭、水道
西部グラウンド	陥没、亀裂、周辺の地滑り
柔道教室	床、入口
卓球教室	床、電灯、窓
浜田児童館	床、内壁、屋根、廊下床
産業会館	事務所、天井の亀裂・落下、外壁はく離
愛育会保育園	浄化槽、フェンス、排水溝
浜口幼稚園	土台、便所、玄関、腰板

多くの民有施設と並んで公共施設も大きな被害を受けました。堅牢な永久校舎も数十カ所が破損し、関係者に衝撃を与えました。

強震で揺れ動いた砂丘地帯の崖地に亀裂が走り、地滑り二次災害の恐怖が関係者の不安をいっそう大きくした。幸いにも、最悪の事態は起らず、難が回避されました。

# 被災現場からの報告

町外から



△八森町では漁業関係の被害が特に大きかった



△津波で岩にたたきつけられた漁船（八森町）

▽津波は峰浜村で最高十三メートルに達した



◁萩の台スキー場から（峰浜村）



◁津波が去って（峰浜村）



▷津波で散乱した漁具を拾い集める漁民（峰浜村）



危うく金庫の下敷きに

荒川陽子さん  
(釜谷)

5月26日、田畑が忙しいせいか、局に来る人はあまりいなかった。少しぼんやり考え事をしていたが、時計を見ると12時なので、さあ、ごはん、と思ひ席を立った瞬間、グラッと来た。最初は、大型トラックでも来たのかなと思って気にしていなかったが、だんだん揺れが強くなって来た。地震だ！と感じてあわてて庭に降りた。そして後を振り返ったら何と、大きな鉄の金庫が倒れて来たではないか。もうすこし逃げるのが遅かったら…と思うとぞっとした。

揺れがおさまって辺りを見ると駭然としていた。ほんの何分かの間に家や道路が壊れたりするなんて信じられなかった。

私が生まれた翌年にも大きな地震があったそうだ。その時をいれると、二度も怖い体験をしたことになる。もうあのような怖い思いは味わいたくない。

◁浜小屋は高さ十三メートルの丘のてっぺんまで押し流された（峰浜村）



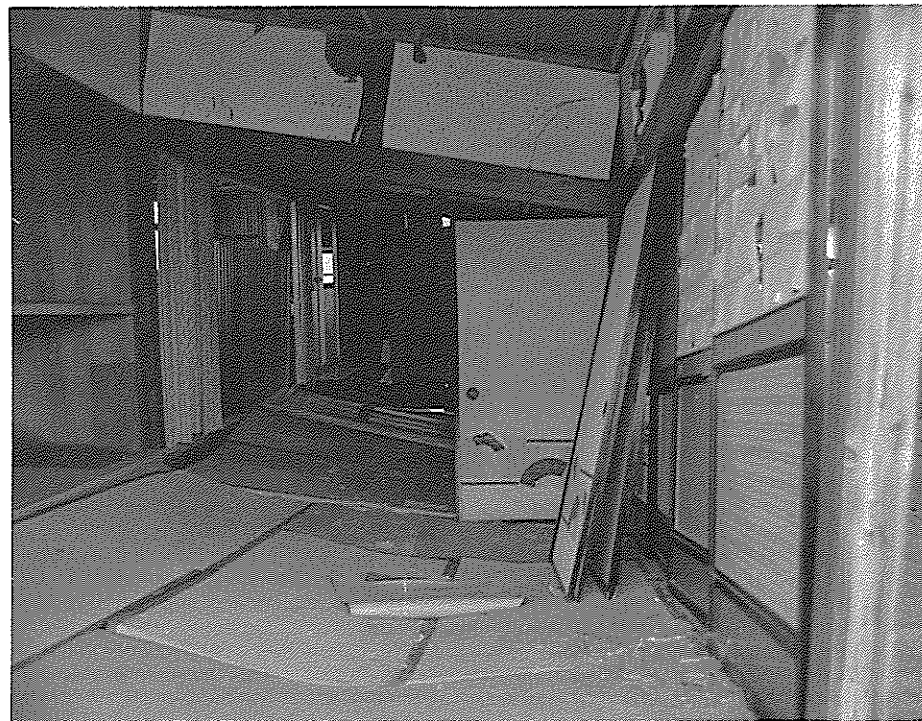
### 防災一口メモ

地震の心得10ヵ条（その2）

- ・火が出たらまず消火——万一出火した場合には、初期のうちに火を消すことが大切。
- ・あわてて戸外に飛び出すな——落下物などにより負傷する危険が多いので、周囲の状況をよく確かめて落ちついて行動する。
- ・狭い路地、へいぎわ、がけや川べりに近寄らない。



△地下水が吹き上げ、「クレーター」が出来た（五明光）



△液状化現象で家の中央が落ちた（五明光）



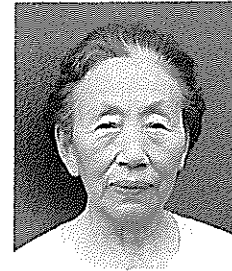
△▷液状化現象で水田は1メートル以上も沈下した（五明光）



▷液状化現象で水田にぼっかりと大きな穴があいた  
(能代市)



◁地滑りで階段状になった宅地(能代市)



逃げた所へ  
地割れが走った

伊藤 ジョウさん  
(芦崎)

地震が来たのは、ちょうど昼ごはんの仕度をしているときで、かつて経験したことのないほどの激しい揺れに、あわててはだしで外に出、畑の方へ逃げました。ところが、そこに地割れが走り、その中へ落ちてしまいました。思わず「たすけてくれ!」と叫んでいました。道路の方は大丈夫だったのでそっちの方へ腹ばいになって逃げましたが、ガスを付けていたのを思い出し、急いで家にもどってガスの元栓を締めました。

揺れが止まってから家の中へ入ると、冷蔵庫は二つとも口を開き、中の物はすべて外にほうり出されていました。ネダは落ちて床は斜めになり、柱は至る所が折れて家も傾き、とにかくすごいものでした。早く家族が帰って来てくれればと思いながら家の中のかたづけをしました。その晩からは家族が一諸になって茶間で寝ましたが、余震で更に傾き、一夜を外で過ごしました。

#### 防災一口メモ

地震の心得10カ条(その3)

- ・山崩れ、がけ崩れ、津波、浸水に注意
- ・避難は徒歩で持ち物は最小限に——津波や大火災で避難を行うときは、消火、救急救護活動などの障害となるので自動車は絶対に使わず、必ず徒歩で避難する。持ち物は最小限にとどめる。

# 失われた人命・財産

## 日本海中部地震による被害

未曾有の天災は、5人の町民の生命を奪い、60億円近い町民の財産を無為の屑としてしまいました。自然災害によって瞬時に多くの人命を失う体験は、恐らく地域の歴史の中でも稀有の出来事でありました。自然の猛威の前には、まだまだ人間は無力な面を持っているとはいえ、不幸を最少限に押えることが出来なかったかという悔いが残ります。

区 分			八 竜 町	秋 田 県	区 分		八 竜 町	秋 田 県				
人的被害	死 者	人	5	83	公立文教施設	被害額	1億3,614万円	17億3,296万円				
	行方不明者	〃	—	—	農林水産商工業施設	〃	13億8,050万円	357億1,533万円				
	重 傷 者	〃	3	67	公共土木施設	〃	1億3,418万円	589億9,163万円				
	軽 傷 者	〃	6	167	その他の公共施設	〃	5,792万円	42億8,142万円				
住家被害	全 壊	棟	134	1,082	小 計		被害額	17億 874万円	1,007億2,134万円			
		り災者 被害額	608 10億6,400万円	4,145	そ の 他	農 産 被 害	被害額	7億7,520万円	24億1,100万円			
	半 壊	棟	216	2,275		林 産 被 害	〃		3億9,955万円			
						り災者 被害額	1,036 8億6,800万円	8,440	畜 産 被 害	〃	120万円	700万円
	一 部 破 損	棟	256	2,473		水 産 被 害	〃	1億4,990万円	155億9,527万円			
						り災者 被害額	1,108 2億5,600万円	9,175		商 工 被 害	〃	7億6,895万円
						床上浸水	棟	—		66	観 光 被 害	〃
	り災者	—	223	住 家 被 害					〃		21億8,816万円	
	床下浸水	棟	4	274		非住家被害	〃	9,744万円	262億6,588万円			
					り災者	16	935	ブ ロ ッ ク ベ イ		〃	504万円	
					そ の 他	〃						
					小 計	被害額	39億9,719万円	446億7,870万円				
					合 計	被害額	57億 593万円	1,481億 4万円				
り災世帯数		世 帯	626									
り災者数		人	2,821									

	1報 5/28	2報 5/29	3報 5/30	4報 5/31	5報 6/3	6報 6/11	7報 6/30
住家全壊(戸)	32	37	37	40	129	129	134
住家半壊(戸)	145	200	203	204	215	219	216
一部破損(戸)	38	232	244	244	247	247	258
被害総額(百万円)			5,398	4,671	5,469	5,469	5,706



死ぬかと思って  
体がふるえた  
  
たもりじゅんこさん  
(湖小2年)

区 分			八 竜 町	秋 田 県
非 住 家	公 共 建 物	棟	15	
	そ の 他	〃	290	2,519
田	流出・埋没 冠 水	ha 〃	1.4	} 2,643
	流出・埋没 冠 水	ha 〃	1.5	
そ の 他	文 教 施 設	カ 所	4	272人
	病 院	〃		29
	道 路	〃	26	666
	橋 り よ う	〃		80
	河 川	〃		184
	港 湾	〃		125
	砂 防	〃		19
	水 道	〃	81	※22,187人
	清 掃 施 設	〃		9
	崖 く ず れ	〃		79
鉄 道 不 通	〃		10	
船 舶 被 害	隻	94	679	
通 信 被 害	回 線		622	
ブ ロ ッ ク ベ イ	カ 所	72	767	

牧野 末蔵さん 72歳 釜谷  
釜谷浜で漁業取引のため待合せ中、津波にさらわれる。

※5月26日、釜谷浜にて発見される。

今野義太郎さん 51歳 浜田  
釜谷浜の浜小屋で作業中、津波にさらわれる。

※5月26日、釜谷浜にて発見される。

堀田 スエさん 61歳 釜谷  
釜谷浜に牧野麻美ちゃんを連れて待合せ中、津波にさらわれる。

※5月26日、釜谷浜にて発見される。

牧野 麻美ちゃん 1歳 釜谷  
おばあさんに連れられ釜谷浜で津波にさらわれる。

※5月26日、釜谷浜にて発見される。

佐藤 年夫さん 47歳 大曲  
能代港で護岸工事作業中、津波にさらわれる。

※6月11日、能代港にて発見される。

「ガタガタ、グラグラ」「じしんだっ」  
わたしはすぐに気がつきました。すぐおわ  
ると思いましたが、体が大きくグラグラゆれ  
て立ってられなくなりました。みんな「キ  
ャー、キャー」と大声でさけんで、つくえの  
下にかくれました。死ぬかと思って体がふる  
ふるえましました。先生が、六年生のしゅう  
学りょうこうについていってなかったので、  
しんばいでなりませんでした。

男の先生がほうそいで、「しずかにグラン  
ドに出なさい」といったので、みんなでひな  
んくんれんのとときおなじに、さっさとにげ  
ました。みんな背いかおをしていました。

グラウンドできゅうしょくをたべてから、ぶ  
らくごとにまとまっていると、おとうさんが  
むかえにきてくれました。おとうさんのかお  
を見たら、ほっとしました。

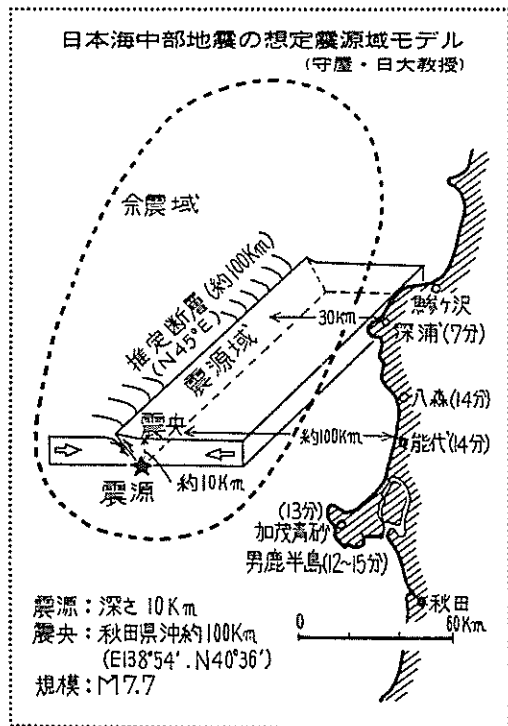
わたしはかみさまに、「こんなおそろしい  
じしんに、もうあわせないで下さい。」とおね  
がいました。

**防災一口メモ**

地震の心得10分条(その4)  
・正しい情報をつかみ、余震を恐れるな——  
役場、消防署、警察署などの指示に従って行  
動する。  
・秩序を守り、衛生に注意——身勝手な行動  
をとらず、秩序を守ろう。伝染病発生の恐れ  
があるので衛生には十分注意する。

# 本震…そして余震

(6/1 さきがけ)



## 本震

昭和58年5月26日午後0時18秒、秋田沖西方100キロ、深さ10キロを震源とするマグニチュード7.7の巨大地震が発生、秋田県は震度5の強震を記録しました。この地震は「日本海中部地震」と命名され、その後も震度4の中震を含む余震が続きました。

地震の直後、日本海沿岸に津波が襲来し、釜谷浜では4人が波にのまれ死亡、能代港の東北電力能代石炭火力発電所用地造成現場で作業していた佐藤年夫さん（大曲）も行方不明（6月11日発見）となりました。

一方、住家の全壊は134戸（全県で762戸）、

半壊216戸（1,564戸）、一部破損258戸と、特に浜田・大口・芦崎の被害は壊滅的なものとなりました。また、船舶の被害は94隻におよび、浜田浜の活魚施設は大破、釜谷浜では活魚施設のほか休憩所6棟も流失、海水浴場の開設は困難となりました。

農業関係では、砂丘地に用水を引く導水管が損壊し、成育期にあったメロンの収穫に打撃が与えられました。これには各農家が自分で井戸を掘ったり、浜口土地改良区の応急工事などで全滅の危機は免れましたが減収は回避できませんでした。田植えが終わったばかりの水田も浮苗などの被害が多く、農家は補植、再植を余儀なくされました。最終的（6月30日現在）に農産被害額は、7億7,500万円余りと報告され、その被害の大きさは想像を超えるものでありました。

町ではこの地震に対し、5月26日午後1時、「日本海中部地震八竜町災害対策本部」を設置（本部長町長）、調査・復旧に全力をあげました。28日には、災害救助法による地震災害

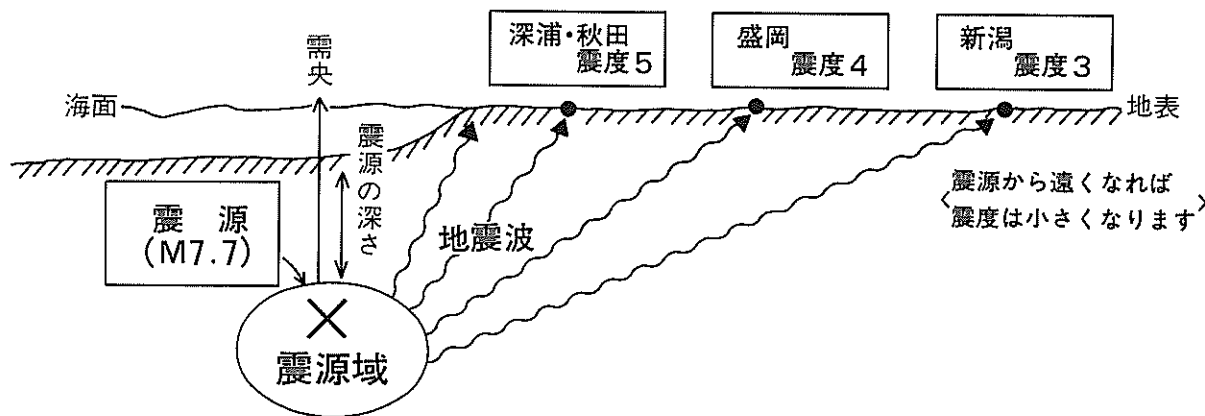
対策地域指定、さらに7月5日には、激甚災害法が適用されました。

## 余震

近年では比類なき大地震となった5月26日の本震以来、その揺れ戻しとも言える余震は1カ月以上も続きました。

こうした一連の余震で、傾いた家屋はさらに傾き、崩れた土砂はさらに崩れ、地震の被害を一層大きくしました。

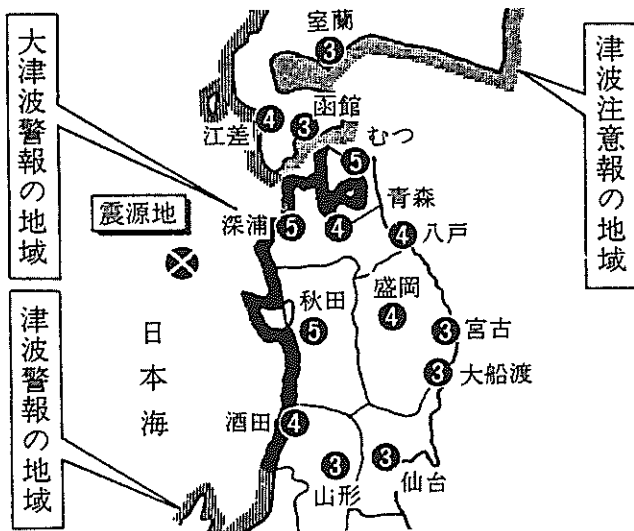
特に被害の大きかった地域の中には、昼夜を問わずやってくる大きな余震に、家が倒れないか、津波がまた来るのではないか、という不安に神経をすり減らされ、復旧作業で疲れた体を休めることもできず、心身ともにむしばまれていきました。特に、高齢者の中には地震後、頭痛やめまいを訴えて通院する人も出ました。



# 余震の記録

番号	日付	時間	震度
1	5月26日	12:08	5
2	"	12:57	3
3	29日	01:10	"
4	30日	07:02	"
5	6月1日	08:19	"
6	9日	13:37	"
7	"	19:23	"
8	"	21:49	4
9	"	22:04	"

# 各地の震度



(『秋田大百科事典』から)



こわかったじしん

さいとうさき子さん  
(湖小2年)

じしんは、ほんとうにこわかったです。わたしは、はじめに目がくらくらして目まいをしたみたいになりました。つくえの下にかくれるれんしゅうをしたことがあるので、みんなさっとかくれました。ゆらゆらゆれて、学校がこわれるかとおもいました。そばのオルガンがわたしのほうへうごいてきました。

ほうそうで、「グランドに出なさい」といっているとき、きょうとう先生も「グランドに出なさい」といいにきました。

教とう先生のおはなしをきいて、みんなでグランドできゅう食を食べてから、あるいてうちへかえりました。おじいさんだけいましたが、わたしをみると、「おかねがったべ」といって、あたまをなでました。

テレビをみたら、えんそくにいていたあい川小学校の子どもたちがつなみにさらわれてしんだことがはっていました。わたしはきゅうにかなしくなつてなみだがでました。

# 秋田県に被害のあった地震

地震名	発生年月日	マグニチュード	被害程度
出羽	830年(天長7)2月3日	7.4	秋田城倒壊、死者15人
出羽	850年(喜祥3)	7.0	庄内地方を中心として山くずれ圧死者多数
出羽	857年(天安元)4月4日	7.0	大館で寺院などくずれ
羽後	1423年(応永30)11月23日	6.7	鳥海山系付近で家屋倒壊、死傷者多数
羽後本荘	1644年(正保元)10月18日	6.9	本荘城大破、死者あり
能代地方	1694年(元禄7)6月19日	7.0	能代地方を中心に倒壊1,273戸、死者394人
羽後津軽	1704年(宝永元)5月27日	6.9	能代付近で倒壊439戸、死者58人
羽前羽後(象潟)	1804年(文化元)7月10日	7.1	象潟、由利周辺で倒壊6,700余戸、死者348人
羽後(男鹿)	1810年(文化7)9月25日	6.6	男鹿半島、南秋田郡付近で倒壊1,418戸、死者59人
羽前羽後	1833年(天保4)12月7日	7.4	庄内地方を中心に倒壊475戸、死者42人
庄内	1894年(明治27)10月22日	7.3	酒田付近で被害甚大、本荘、象潟にも被害及ぶ
陸羽(六郷)	1896年(明治29)8月31日	7.5	六郷、仙北を中心として倒壊5,911戸、死者209人川舟断層、千屋新層生ず
羽後仙北(強首)	1914年(大正3)3月15日	6.4	強首を中心に倒壊640戸、死者94人
平鹿郡	1914年(大正3)3月28日	5.8	沼館で倒壊数戸
男鹿半島	1939年(昭和14)5月1日	7.0	男鹿付近で倒壊1,733戸、死者28人
十勝沖	1952年(昭和27)3月4日	8.1	北海道南部、東北に多大な被害、秋田で半壊破損4戸、傷害2人
二ッ井	1955年(昭和30)10月19日	5.7	二ッ井を中心に倒壊106戸、傷害2人
青森県西方沖(男鹿沖)	1964年(昭和39)5月7日	6.9	青森、秋田、山形三県に小被害及ぶ
新潟	1964年(昭和39)6月16日	7.5	新潟、山形に甚大な被害及ぶ、秋田県で倒壊160戸、死者5人
1968年 十勝沖	1968年(昭和43)5月16日	7.9	北海道南部、青森で多大な被害、秋田で半壊破損4戸、傷害2人
秋田県東南部(東成瀬)	1970年(昭和45)10月16日	6.2	東成瀬付近で倒壊68戸、傷害4人
宮城県沖(宮城沖)	1978年(昭和53)6月12日	7.5	宮城県を中心に多大な被害、秋田にも小被害

## 防災一口メモ

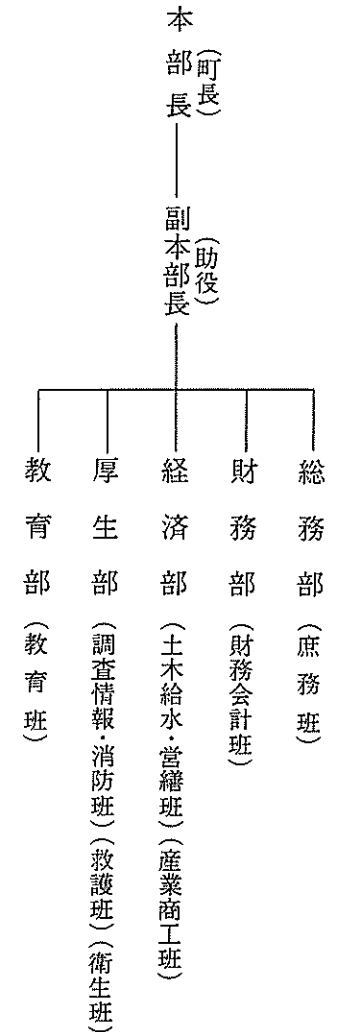
地震の心得10ヵ条(その5)

・協力しあって応急救護——たくさんの負傷者が出る時救急の手が回らないこともある。協力しあって、応急救護をしよう。急場にはおたがい助け合おう。

# 行政の対応

月日	八 竜 町 の 対 応	月日	秋 田 県 の 対 応	備 考
5/26 (木)	災害対策本部設置 (1:00) 消防団長、分団長へ警戒及び被害状況調査指示 津波による行方不明者捜索 (釜谷分団) 被害家屋の調査 (第1次) 本部指令で関係部門の被害状況調査 水道、道路の応急修理開始	5/26	地震発生後直ちに市町村消防機関に一斉指令 県災害対策連絡部設置 (午後0時25分) 県災害対策本部設置 (午後0時50分) 地方部に災害対策本部を設置 県災害対策本部会議 当面、緊急的に次の措置を講じた ア. 二次災害の防止に努めること イ. 災害の実態をは握すること ウ. 行方不明者の救助、捜索に全力をあげる こと エ. 被災者の救済対策に万全を期すること オ. 民生安全に全力をあげること カ. 都市ガス、水道の早期復旧と給水体制 を確保する キ. 交通の確保と早期復旧を図る ク. 被害住家について応急仮設住宅の建設 ケ. 自衛隊への災害派遣要請	市町村の対応 被災市町村 56市町村 災害対策本部設置市町村 19市町村 応急仮設住宅の建設 5市町村 94棟
5/27 (金)	能代港行方不明者捜索 (大曲分団出動) 八竜町議会全員協議会開催 案件 { 被害状況について 対策本部の対応について 災害関係費の専決処分について 第1次被害家屋調査継続 (写真撮影を実施) 全戸へ被害届用紙配布		行方不明者捜索救助のため、自衛隊等への災害派遣要請災害救助法の適用 若美町、能代市、男鹿市、八森町、八竜町、秋田市、昭和町、井川町、山本町の九市町村に適用した。	2次の災害の発生状況 (秋田県) 火災発生 2件 かけ崩れ 3件 土石流 5件
5/28 (土)	能代港行方不明者捜索継続 (大曲分団) 第1次被害状況調査集計及び報告 (農協、共済、消防署へ資料提供要請)			〈町の援助対策〉 6月定例議会が18日に招集され次の条例等を可決した。 ▷日本海中部地震による被災者に対する町税の減免処置 被災者の損害程度に応じて町民税や国定資産税を減免 (町民税は8分の1~10分の1までの範囲、固定資産税については10分の4~10分の10の範囲) ▷日本海中部地震による被災者に対する国保税の減免について 被災者の損害程度に応じて4分の1~10分の10の範
5/29 (日)	能代港行方不明者捜索継続 (大曲分団) 第2次被害家屋調査 応急仮設住宅供与対象者審議 学校関係仮設トイレ着工 (湖小19、浜小20、八竜中3) 第2次被害状況集計及び報告 (中間)	5/26		
5/30 (月)	能代港行方不明者捜索継続 (大曲分団) 第2次被害家屋調査継続 町民負担軽減措置の検討 税金の減免 各種貸付金 借入金利子補給 津波による死亡者宅への災害甲慰金支給 第1次救援物資配布 第3次被害状況集計及び報告			
5/31 (火)	能代港行方不明者捜索継続 (助役現地慰問) 住宅金融公庫説明会			

## 災害対策本部 組 織 図





㊦	県の死亡見舞金支給 夜間無線の対応～連絡職員の配置 第1次救援物資配布継続 応急仮設住宅着工
㊧	能代港行方不明者捜索継続（大曲分団、町民課） 地滑り発生（午後4時頃）～芦崎、追泊地区 職員による応急処理、広報 消防団による警戒体制（常時） 第2ゴミ投棄場ゴミ整理（被災ゴミ） 第3次被害家屋調査開始（6班を編成）
㊨	能代港行方不明者捜索継続（大曲分団、町民課） 第3次被害家屋調査 （職員4人、消防署員1人で班編成） 文部省の学校関係施設現地調査 自民党議員団来町 災害復興住宅資金説明会（浜公） 芦崎地区地滑り調査 第4次被害状況集計及び報告
㊩	能代港行方不明者捜索継続（大曲分団、町民課） 第3次家屋被害調査継続 漁業関係復興計画協議（浜口漁協） 災害復興住宅資金借入協議（山本土木事務所）
㊪	能代港捜索継続（第1、第4分団、町民課） 第3次被害家屋調査継続 り災証明発行 災害援護資金借用申込数（仮申込）集計及び報告（全壊97戸、半壊106戸） 追泊地滑り対策協議 海岸堆積物、欠陥箇所復旧協議（山本地方部）
㊫	県防災課長に被害状況説明 能代港捜索継続（第2、第4分団） 第3次被害家屋調査集計
㊬	能代港捜索継続（第3、第4分団） 商工会関係災害状況現地調査（通産省） 第5次被害状況集計及び報告

災害復旧状況（秋田県）

- (1) 被害総額 約1,454億円  
(2) 復旧状況
- ア. 電力 被害戸数 17,563戸  
災害当日の夕刻、全面復旧
- イ. 水道 断水戸数 22,187戸  
6月10日までに全面復旧
- ウ. ガス 被害戸数 14,905戸  
秋田市、能代市、男鹿市、若美町、大潟村などで6月21日までに全面復旧
- エ. 住家 全壊 1,082戸  
半壊 2,275戸  
応急仮設住宅94戸を建設
- オ. 福祉保健関係
- ① 社会福祉施設 被害箇所 11カ所  
応急修理は6月20日までに実施済
- ② 保健医療施設 被害箇所 36カ所  
応急修理は6月12日までに実施済
- ③ 社会保健施設 被害箇所 5カ所  
応急修理は5月30日までに完了
- ④ 生活保護関係  
全半壊世帯については、当面、仮設住宅、親せき、アパートなどに入居しているが、今後、公営住宅への入居を指導する予定。  
その他については生活保護の住宅補修費で対応する。
- カ. 農政関係
- 1) 水稲 被害面積 2,643ha  
（作付不能面積は 981ha）  
苗の不足面積 272haについては5月末日までに補植を完了。
- 2) 漁港  
漁港の補修については水産省と協議

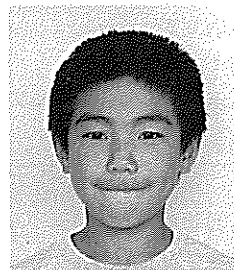
圏内で減免

地震発生後、町ではいち早く町税減免条例を制定し、被災者の費用負担の軽減を図りましたが、その後新たな援助対策を定めてその実施にとりかかりました。対策の主なものは下記のとおり。

▷住宅被害者への援助  
住宅、店舗、宅地などの建設補修のため、住宅金融公庫や、その他の公的制度資金の融資を受けた方に対し、最初の3年間1%の利子補給をする。ただし、1世帯の対象融資額は800万円を限度とする。

▷農業、漁業施設被害者への援助  
農業や漁業の施設設備の被害復旧のため、天災融資法に基づく激甚災害融資を受けた方に対し、最初の3年間1%の利子を補給する。ただし、1世帯の対象融資額は、250万円を限度とする。

▷災害援護資金借入者への援助  
町では全壊者に対し、120万円（特別なものは180万円）、半壊者80万円をそれぞれ限度として災害援護資



夜は服を着たまま  
ねました

相沢 豪さん  
（浜小4年）

ぼくの家では、こわれたりしたところはなかったけれど、八竜町では死んだ人が5人いました。

地震から1週間ぐらいたってから、とうさんと浜に行ってみました。そしたら三年生のおむらかずくんが浜ごやだけあって、ほかの浜ごやはみんなこわれてしまっていました。釜谷ののうめん道路がひっこんでいました。ぼくのとりのしんせきの家は、後の方にかたむいていたそうです。ぼくのお父さんは、そのかたむいた家をなおしに行ってきました。

そして夜になってから、また地震が来たらしゅっか所にすぐにげられるように、服を着たままねました。

防災一口メモ

火を使う器具設備の点検整備  
石油ストーブは必ず対震自動消火装置付のものを使用すること。  
ガスコンロ、ガスストーブ等についても欠陥の有無、安全装置付かどうかを点検、不備の場合は整備を行う。

％ (用)	夜間降雨による2次災害対策 { 地滑地域に対する広報 消防分団長への警戒指示 町長、町民課長、県防災課へ陳情
％ (火)	能代港捜索継続(第1、第4分団、町職員) 住宅応急修理該当者名簿報告(27名) 災害救助実施報告(国庫補助関係) 地震災害町税減免協議(県庁) 衆議員議員団への陳情(能代に於いて) 商工会関係災害状況現地調査完了
％(水)	能代港捜索継続(第4、第6分団、町職員)
％ (水)	能代港捜索継続(第2、第4分団、町職員) 災害復興住宅資金申込認定(26人) 2次災害対策緊急出動 { 午後9時45分地震発生(震度4) 午後10時津波警報 警戒体制 (釜谷部落広報、地滑り、水道の現地確認)
％ (金)	能代港捜索継続(第3、第4分団、町職員) 町税減免などの条例案協議(能代市役所)
％ (土)	能代港で行方不明者(佐藤年夫さん)発見 災害見舞金及び援護資金関係集計 第6次被害状況報告
％ (日)	大雨注意報による警戒広報(午後9時40分～) 地滑地区現地調査(消防分団)
％ (用)	死亡弔慰金支給(佐藤年夫さん) 地滑地区警戒体制協議
％ (火)	浜口地区水源調査(県環境衛生課) 芦崎地区地滑現場調査(県砂防課) 学校関係災害現地調査(県教委)
％ (水)	各消防団へ2次災害防止通知 災害援護資金、災害弔慰金担当者打合せ(県庁 建設省陳情資料作成)
％ (木)	学校関係浄化槽被害状況調査 建設省へ陳情(町長)

中。  
 3) 水産施設  
 ① 漁船  
 破損した漁船は地元造船所で船体、  
 機関の修理にあたっている。  
 ② 漁具  
 予備網を使用して操業を開始した。

キ. 商工関係  
 今までに講じた措置  
 ① り災中小企業に対して、県の中小企  
 業復興資金及び政府系3金融機関が  
 災害復興貸付を開始するとともに、  
 金融機関等に対し、迅速な貸付と弾  
 力的な貸付について要請。  
 ② 激甚災害の指定について、中小企業  
 庁等関係機関に陳情を行った。  
 ③ 津波による労働者災害に対し、労働  
 者災害補償保険法の適用について関  
 係機関に要望した結果、適用の方向  
 で被害の実態のは握に努め、給付の  
 促進を図ることになった。

ク. 公共土木関係  
 1) 道路 直轄被害 9カ所  
 県道被害 191カ所  
 市町村道被害 466カ所  
 6月15日までに全面復旧  
 2) 港湾  
 6月7日、秋田港、船川港の調査終  
 了

金の貸付を行います。借  
 受者に対し年率3%の利子  
 補給をする。このため、借  
 受者の利息負担は全くいら  
 なくなります。  
 ▷中小企業設備被害者への  
 援助  
 商工業者で設備被害復旧  
 のため、公的な激甚災害融  
 資を受けた方に対し最初の  
 3年間、1%の利子を補給  
 します。ただし、1世帯の  
 対象融資額は、250万円を限  
 度とする。  
 ▷農業団体の被害復興への  
 援助  
 農協、土地改良区が行う  
 農業施設の復興事業に要す  
 る費用のうち、国・県の補  
 助対象とならない事業設計  
 料については町が全額負担  
 する。  
 ▷土地改良区編入外農地等  
 の復興援助  
 土地改良区に編入されて  
 いない農地等の個人の復興  
 事業費は、町が肩代りして  
 直営します。ただし、被害  
 農家個人から費用の一部を  
 負担していただく。  
 ▷漁業団体への援助  
 町の漁業振興基金のうち、  
 500万円を無償で漁協に貸  
 出し、漁協は低利で需用漁  
 家に貸付します。また、共

## 災害復旧状況(八竜町)

- 道 路  
 町道被害 25カ所 5/30までに仮復旧  
 県道 " 8 " 6/20  
 国道 " 1 " 未着工
- 住 家  
 被災家屋の建築確認申請数 50件  
 応急仮設住宅15戸を建設(616完了)  
 (浜田8戸、芦崎5戸、大口1戸、大谷  
 地1戸)
- 水 道  
 被害箇所 81カ所 6/4までに全面復旧
- 急傾斜地  
 地滑り 6カ所  
 特に危険な5カ所については6月4日ま  
 でにシート被覆し、二次災害を防止した。
- 農業関係  
 ア.水稲 被害面積 96.6ha  
 (作付不能面積は39.1ha)  
 浮苗については6月上旬までに補植を完  
 了した。  
 イ.畑 被害面積 290ha  
 畑地かんがい施設の破損で農家は井戸を  
 掘って対処。仮設導水管は地震後十日後  
 に完成し、被害を最少限に食い止める。
- 漁業関係  
 6月下旬から4分の1の漁家が操業を開  
 始。漁船の修理も7月上旬には完了。
- 観 光  
 津波で釜谷浜海水浴場の休憩所が全滅し  
 たため、今年は海水浴場の開設を断念。

7/21(火)	地震災害による町税減免の通知
7/22(水)	土地改良施設災害査定(三種川、本田) 被害住宅程度認定通知発送
7/23(木)	災害関係予算執行協議 浜口地区水道復旧につき本部長上京
7/24(金)	被害住宅程度認定通知後の対応協議
7/29(水)	世帯更生資金説明会(千寿荘) 被害家屋第4次調査 (消防署員4人、町職員5人)
7/30(木)	第7次被害状況報告(最終確定報告) 災害見舞金適用申請書送付
7/31(金)	地震などの災害による保険料の免除等について 全戸通知災害援護資金申込通知送付
7/31(月)	災害対策本部会議
7/31(火)	第2次救援物資配布 住宅応急修理事務打合せ(若美町)
7/31(水)	災害援護資金申込書受付(鶴公)
7/31(金)	災害援護資金申込書受付(芦崎児童館浜公)
7/31(火)	災害援護資金借入申込者名簿報告(県へ) 住宅応急修理説明会(浜公、対象27戸)
7/31(水)	災害義援金仕分作業 災害救助法に基づく関係調書検収 (山本福祉事務所)
7/31(木)	災害義援金配布
7/31(金)	秋田県知事来町
7/31(月)	救援物資の展示及び配布
7/27(水)	(25日—浜公、26日—芦崎児童館、27日—鶴公)
7/31(金)	災害義援金贈呈通知送付 災害援護資金貸付事務打合せ
7/31(土)	八竜町災害対策本部解散
7/31(月)	災害援護資金貸付の実施
7/31(金)	180万円貸付 55世帯 120 " 66 " } 総額 80 " 122 " } 2億7,660万円 50 " 1 " 30 " 1 "

- 3) 八郎潟千拓堤防  
堤防沈下及び法面保護工の欠損延長54kmに対し、堤防かさ上げ延長6.1km(高さ1m)を6月10日で応急措置完了
  - 4) 緊急傾斜地  
崩壊8カ所について、亀裂に申請しシートで被覆して第2次災害を防止
  - 5) 鉄道  
奥羽本線(東能代～森岳間)  
6月7日午後5時復旧  
五能線(むつ岩崎～五所川原間)  
6月16日午後2時復旧
- 今後の対応
- (1) 被災者の生活基盤の安定化促進
  - (2) 恒久的土木施設、農林水産業施設等の早期復旧を図るため、災害査定の早期実施
  - (3) かけ崩れ、土石流発生等の2次災害の防止対策
  - (4) 国に対する要望事項の実現

復旧事業費見込額

農業施設	7億2,503万円
公共土木施設	6,467 "
文教施設	7,633 "
地滑り対策	3億1,790 "
簡易水道	5,754 "
計	12億4,147万円

学校施設 5,239万円  
社教施設 2,394万円

7/31 登谷浜に大津波遭難者の慰霊碑を建設

用の漁業施設の設計料については農地同様、町が全額負担する。  
▷中小企業幹旋資金の利用援助  
従来の中小企業幹旋資金の枠を拡大し、保証料を全額補助して、この資金の利用効果を高めます。  
▷部落公民館の復旧援助  
部落公民館の復旧費については町が半額補助し残り半額は償還期間を延期し、無利子貸付をします。  
▷奨学資金制度による援助  
り災者の奨学金償還期間を延長するほか、新たに貸付申込みを受けつけます。



地しん

桧森陽子さん  
(浜小4年)

地しんから約二週間たちました。私はあんな地しんは、もうぜったいにこなればいいと思います。  
かまやの浜では4人の人が死んでしまいました。私は、かわいそうだと思いました。能代の浜でも何人か死んでいました。  
地震がきて、あんなに明るかった町が急にさびしくなっていくような気がします。能代の方は、八竜町よりもいっぱい人が死んだので、わたしたちよりももっとさみしい思いをしていると思います。なぜこんな地震がくるのか、なぜ、つなみがくるのか、私は地震とつなみとがにくらしい感じがします。とてもいやだなあとと思います。

防災一口メモ

地震発生時の火災対策(その1)  
①地震のときの激しいゆれは、おおむね1分位続くので、火を消せなかった場合は激しいゆれがおさまったら落ちついて始末する。  
②出火の場合、火が火元から天井に燃え移るまでには3～5分位かかるので、この間に全力をあげる。

## 日本海中部地震

昭和58年5月26日正午、秋田県沖を震源としたマグニチュード7.7の地震が発生、県内を中心とした日本海側に大きな被害を与えました。県内の海岸部は軒並震度5の強震を記録、また、これまでに例を見ない波高5m前後の津波が十数分後に襲来し、能代港を中心に死者102人の人的被害を受けました。

地震と津波による被害は1道6県に及び、各地で停電や家屋の倒壊が続出、国鉄、道路などの交通網も寸断されるなど、昭和53年の宮城県沖地震を上回る大震災となりました。

1) 死傷者の状況 死者 102人

2) 人的被害の特徴

日本海中部地震による津波で亡くなった方は県内だけでも78人に達しましたが、地震そのものによる死者はわずか3人。ほとんどの方が地震直後に押し寄せた津波によってその命を落としました。

今回の地震は、わたしたち日本海側に住む人々にとって“地震イコール津波”という大きな教訓を残しました。

3) 物的被害の特徴

日本海沿岸を襲った今回の地震被害は、液状化現象と津波に代表されます。

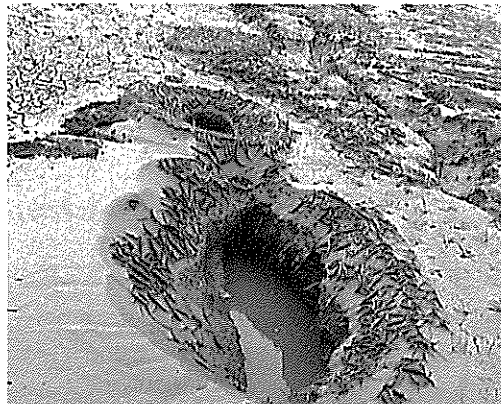
液状化現象と地割れで大きな被害のあった浜口地区では家屋の基礎の崩壊が相次いだ。これらの地域の状況を見ると、ほとんどが以前湿地帯の水田であったり湖沼を埋め立てて宅

地を造成した所であったことから、軟弱地盤が被害を大きくしたといえます。こうした軟弱地盤地域は、今後、地震の影響を最少限に食い止めるため、砂質地盤を粘土性の高い赤土に入れ換え、さらに重機で強固に踏み固め、基礎ぐいを打ち込む。基礎には縦横に鉄筋を入れることが必要不可欠といえます。

4) 少なかった火災

震度5の強震に直撃されたにもかかわらず県内で起きた火災は、東北電力秋田火力発電所の重油タンク火災と秋田市内でボヤの2件だけでした。

火災の少なかった理由としては、ストーブを使用しない時期であったことと、正午に地震が発生したことから、ほとんどの家庭で昼食の準備を終えていたことが上げられます。



＜被害を大きくした液状化現象＞

関東大震災は大正12年9月1日11時58分に発生し、ちょうど昼食時で各家庭が火気を使っていたことから大火災となり、東京を中心にきわめて大きな被害をもたらしました。

最近の地震では「地震の際はまず消火を」という意識が徹底しているためか、一般の家庭から火災が発生する例は少なくなりましたが、関東大震災は、地震で火災が発生したら大惨事になるという大きな教訓を残しました。

1) 死傷者の状況 死者99,331人、負傷者103,733人、行方不明43,476人

2) 人的被害の特徴 死者の9割弱が焼死で、家屋の倒壊による死者が10戸について1人であったのに対し、焼失家屋の場合は4戸に1人と報告されています。

3) 火災で多くの死傷者を出した理由

- ア. 市民が家財などにこだわり、避難が遅れた。
- イ. 市民の多くが家財を持ち出したため、路上で混乱が生じてしまった。
- ウ. 消防力が弱かったことと、混乱した群集などで消化活動ができなかった。
- エ. 大災害に対する計画がなかった。

## 宮城県沖地震

宮城県沖地震は、昭和53年6月12日午後5時14分に発生、震度5の強震が仙台地方を襲った。震度5の強震が人口50万人以上の都市

## 関東大震災

を襲ったのは戦後初めてで、都市型地震災害の事例として多くの教訓を残しました。

- 1) 死者の状況 死者28人、負傷者11,028人（うち重傷者 266人）
- 2) 死亡の原因
  - ア. ブロック塀の下敷 15人
  - イ. 建物倒壊 4人 ウ. ショック死 3人
  - エ. 門柱の下敷 3人 オ. 落下物 2人
  - カ. 土砂崩れ 1人
- 3) 人的被害の特徴
  - ア. 死者の多くはブロック塀の下敷による。
  - イ. 重傷者の多くのブロック塀の転倒や落下による。
  - ウ. 軽傷者の大半は屋内で負傷し、ガラスの破片や家具の転倒などによる。
  - エ. 女性の負傷者は男性の2倍にのぼった。
- 4) 宮城県沖地震の特徴
  - ア. 家具、調度類の転倒、落下、ガラス破損防止の重要性。
  - イ. ブロック塀対策の重要性。
  - ウ. 救急薬品などの備えの必要性。
  - エ. 新興住宅地の危険性。
  - オ. 都市ガス、水道、電気、電話などのストップによる生活の支障

## 浦河沖地震

昭和57年3月21日午前11時32分に発生した浦河沖地震は、北海道の浦河で震度6を記録しましたが死者もなく、火災も発生しませんでした。

これは、過去に再三震度5程度の地震に見舞われていたために、町民の防災意識が高く、日頃から各家庭で地震に備えた対策を行っていたためです。

- 1) 負傷者の状況 負傷者 92人
- 2) 人的被害の特徴
  - ア. 宮城沖地震同様に女性の負傷者が男性の1.7倍に達しました。
  - イ. 負傷した場所は大部分が屋内である。
  - ウ. 負傷の原因は「家具類の落下、転倒」「熱湯、火気」「ガラス」などによるものがほとんどである。
  - エ. 地震動による転倒は、男性1人に対して女性12人で、大部分は高齢者である。
- 3) 被害の少なかった理由
  - ア. 家屋の倒壊がほとんどなかったこと。過去の地震被害の経験から、家屋の筋かいの強化などの耐震対策や寒冷地対策として屋根の軽量化、基礎の強化などを行っていた。
  - イ. 火災が発生しなかったこと。自動遮断装置付きの大型ストーブを使用していたことにもよるが、住民の間に出火防止意識が徹底しており、冷静に消化した。
  - ウ. 過去の地震被害の経験から、家具の転倒防止などの対策をほどこしていた。
  - エ. 地震の発生日が日曜日の午前11時32分という時間であったため、家族全員が素早い行動をとることができたこと。もし夜間の就寝中に発生していれば家具の転倒、落下により、負傷者が増加したと思われる。



地しん

島山 佐貴子さん  
(芦分3年)

百メートル競争をしていて1とう2とうを決めていたら、急に地しんがきました。わたしがおどろいていたら、ほった先生が「地しんだ、ここにあつまれ」と言いました。わたしは、きゅうに地しんがきたので、だれかがおしたのかと思いました。でも地震だったのでよかった。

グラウンドにしばらくすわっていました。そうしたらグラウンドにひびが入りました。すこしたつと海の方からゴゴゴとなみの音がしました。わたしはこわくなってなきました。岩谷先生がきゅう食をもってきてくれ、みんなで食べていたら、おかあさんがむかえにきてくれました。

家に帰ってみたら、タンスやテレビがたおれたり、コップがわれていました。わたしのへやはなんともなかったけれど、げんかんはくつ入れがこわれていました。でも、おかあさんがなおしてくれました。地しんはとてもよかったです。

### 防災一口メモ

地震発生時の火災対策（その2）

- ③ガラストーブ、コンロなどガス器具からの火災は、ガスの元せんを締めてから消火する。
- ④電気コンロなど電気器具からの火災は、感電の危険があるので、コードの差し込みを抜くなど電流を断ってから消火する。

# 各地から暖かい援助

日本海中部地震による町の損害額は57億円にも及び、町や住民の台所は、よりきびしい状態に置かれました。

地震の翌日から町には、多くの方から義援金や救援物資が寄せられ、そこに込められた“助け合いの心、人間愛の心”は、わたしたちの復興精神を奮い起こさせてくれました。

(受付順、敬称略)

救 援 物 資			義 援 金 ・ 見 舞 金			
寄 贈 者 名	寄 贈 品	数 量				
日赤山本地区長	毛 布	348枚	朝 日 ビ ー ル	缶 ス ー プ	300本	
山本福祉事務所	日 用 品	37セット		N H K	缶 ジ ュ ー ス	300本
大成道路秋田営業所	袋 詰 合 材	96袋	日 赤 秋 田 県 支 部		タ オ ル	400本
大 洋 漁 業	ソ ー セ ー ジ	360本		シ ー ツ	55枚	
ジ ャ ス コ	缶 コ ー ヒ ー	480本		キ ル ケ ッ ト	93枚	
	や き そ ば	72コ		マ ッ ト レ ス パ ッ ト	23コ	
大 塚 製 薬	缶 ジ ュ ー ス	60本		衣 類	21箱	
	カ ロ リ ー メ イ ト	30本		衣 類	15箱	
ダ イ エ ー	ポ ン カ レ ー	2,100コ		た ま ご	17ケース	
	カ ッ プ ラ ー メ ン	560コ		衣 類	31箱	
	ポ ッ カ コ ー ヒ ー	30本		作 業 衣	1ケース	
ほ っ か ほ っ か 亭	米 (5.6kg入)	6袋		衣 類	25箱	
日 本 専 売 公 社	塩	241コ	衣	40箱		
	秋 田 支 局	マイルドセブン	391コ	義 援 金 ・ 見 舞 金		
イ ト ー ヨ ー カ ド ウ	オ レ ン ジ エ ー ド	600本	秋 田 県 町 村 会			25万円
郵 便 局	ハ ガ キ	1,205枚	秋 田 県 町 村 職 員 互 助 会			1万円
	書 簡	241枚	秋 田 県 町 村 退 職 手 当 組 合			1万円
資 生 堂 秋 田 販 売	浴 用 セ ッ ケ ン	180コ	秋 田 銀 行			100万円
秋 田 花 王 製 品 販 売	ニ ュ ー ビ ー ズ	200箱	羽 後 銀 行			100万円
	フ ァ ミ リ ー フ レ ッ シ ュ	240本	八 竜 町 ス キ ー ク ラ ブ			2万円
			高 谷 林 業			2万円
			全 国 町 村 会			3万円
			秋 田 相 互 銀 行			150万円

# 救援物資 義援金 配布

(受付順、敬称略)

工藤 功	10万円
久保田鉄工秋田営業所	5万円
愛球会	3千円
伊藤 測量	5千円
金子 仁益	100万円
東日本建設保証	5万円
ダイケン	3万円
能代信用金庫	100万円
みやカメラ	1万円
田中 鉄男	1千円
佐々木 鉄雄	1万円
ひまわり会	1万円
恒川 勇太郎	3万円
岩手県久慈市	5万円
湯河原商工会	5万円
日本赤十字秋田支部	716万4,800円
湯浅利一	200万円
魁新報社、ABS秋田放送、AKT秋田テレビ	1,496万5千円
宮城県えびの市	15万円
秋田県	7,442万4千円
常盤知暁	15万3千円
成田 広造	5万円
金子 三之助	2万円
ライオンズクラブ	30万円

5/30 津波による死亡者宅へ災害弔慰金支給(4名)。第1次救援物資配布。

5/31 県の死亡弔慰金配布。救援物資配布継続。

6/13 死亡弔慰金支給(1名)

6/15 災害援護資金、災害弔慰金担当者打合せ(県庁)

6/30 災害見舞金適用申請書送付。

7/2~3 救援物資配布のための仕分作業。

7/5 第2次救援物資配布。

7/13 災害義援金着(秋田魁新報社、ABS秋田放送、AKT秋田テレビ、日赤秋田県支部)

総額 22,110,000円

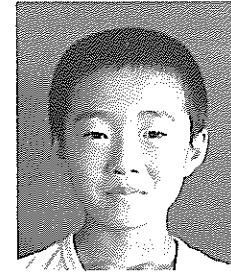
7/20 災害義援金仕分作業。

7/21 災害義援金配布。

7/22 知事来町(見舞金持参)

7/25~27 救援物資の展示・配布(25~浜口公民館、26~芦崎児童館、27~鶴川公民館)

8/2 第2回災害義援金配布



もし地しんが  
夏に起ったら

島山 芳仁くん  
(芦分3年)

その時、ぼくたちは百メートルきょう争を  
していました。1とうから4とうまできま  
ました。そして、もう一回走ろうとしたら急に  
地しんがきました。岩谷先生が「しゃがみな  
さい」と言いました。だけど一年生のしんや  
君と三年生のひでき君が学校の中にいたので、  
こだま先生が二人をむかえに行きました。ほ  
った先生がラジオを持ってきて聞いていまし  
た。ほった先生がラジオを聞いて「マグニチ  
ュード七・七」と言いました。ぼくは自分の  
家がどうなっているか心ばいになりました。  
グランドの遠くの方にヒビが少しはいつてま  
した。家に帰ってみたらタンスやつくえがあ  
いていました。二階も物がいっぱいおちてい  
たのでたいへんだなあと思いました。ぼくは  
地しんが夏におこるとたいへんだと思いまし  
た。それは海にいとつなみにさらわれて人  
がいっぱいしぬからです。次の日学校にきて  
みたら教室の中がぐっちゃぐちゃでした。  
もう地しんがこなければいいと思いました。

## 防災一口メモ

地震発生時の火災対策(その3)

⑤天ぷらなどを揚げている油に火が入ったと  
きは、まずガスなどの元栓をしめ消火器で消  
すか、大きなぬれタオルやぞうきんなどをか  
けて消火する。水をかけると危険なので水は  
かけない。

# 降りしきる雨つの不安

## 大雨・洪水注意報発令

# 八竜で砂山地すべり

## 能代市 前山地区に避難命令

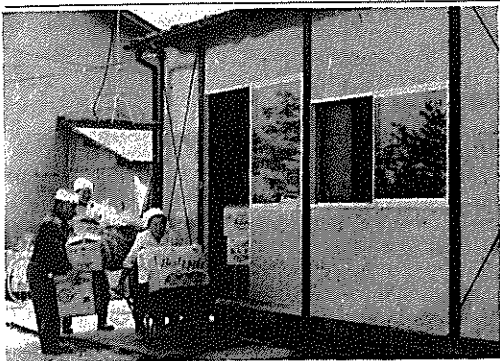
能代市本地方は十三日、日本海中部地震後初めて本格的な降雨に見舞われ、急傾斜地などでは土砂崩れなど災害の恐れが出始め、能代市災害対策本部は同日夜、同市河川前山地区に対し避難命令を出した。各市町村は、危険地区の把握にあたることに、パトロールの強化をして万一に備えているが、危険地帯の住民たちは土砂崩れの不安と恐怖におののいている。

同地方は十三日未明から降った雨が夜になってもやまず、大雨・洪水・強風・波浪注意報が発令されたまま、能代市西十丁に強い雨雲があり、これが同地方に断続的な雨を降らせたもので、降り始めからの各地の雨量は能代市三二、八竜町三二、

日本海中部地震で、能代市は山本の沿岸部、八竜、能代、峰浜、八森、四市町村は大すべりを起こしている箇所も多く、大雨が降れば土砂崩れや土石流の発生する恐れがある。地震発生後比較的好天に恵まれたため、二次災害は発生していなかったが、この日の雨ですべてに亀が走り、地すべりを起こしている箇所は要注意となつていく。



いつ土砂崩れが来るか——と二次災害の恐れが出ている八竜町浜田字中台地区



プレハブの仮設住宅に荷物を運ぶ被災者(八竜町浜田で)

# 引越しの足どり重く 応急仮設住宅の入居始まる

日本海中部地震で住宅全壊などの被害が出た能代市と八竜町、八森町の三市町は応急仮設住宅を建設、被災者の便宜を図っているが、八竜町ではすでに応急仮設住宅の入居生活が始まっている。能代市は、六日

から入居できるほか、八森町でも六日中にはすべて入居できる見込みだ。八竜町は、被災者対策本部が前山地区の各十丁、八竜町が各敷地内に十五棟、八森町が二棟、規模は十二一平方メートル、七坪で二層の居間と台所、トイレなどが設けられる。電気、水道はつくが、ふろはない。三市町のうち能代市では五月三十一日から工事に着手、五日までに完成、きょう六日から入居できる。同市の場合、四百五十六棟が全壊したが、入居希望者は九世帯だけ。他の家族は親類宅に身を寄せたり、倒壊を免れた建物などに移って生活しているものとみられる。

また、同所の作業員、松森芳盛さん(五十二)は砂山の下が下りて家が大きく傾き、「とても怖くもならないが、行くこともない。雨が降って山が崩れ家がつぶされると夜もおちおち寝れない」と不安を募らせている。秋田地方気象台によると、雨は十五日朝まで降り続くという。同各市町村では危険地帯の住民に「雨足が早くなった避難できるように心がけ、十分警戒するように」と呼びかけている。

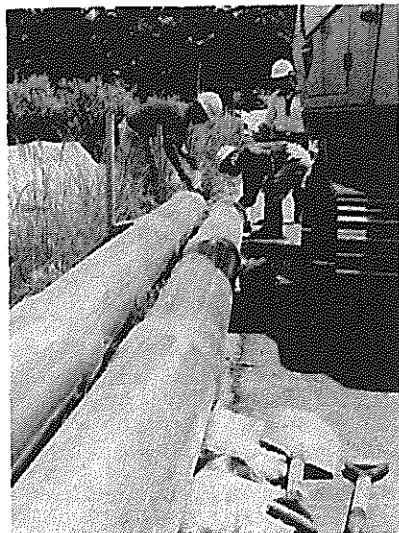
また、八竜町では浜田中台、大口字地蔵、芦崎地区など五カ所所で新たに急傾斜地崩壊区域が出た。浜田字中台地区は、高さ十丁の砂山が幅二メートルにわたって地すべり現象を起こしており、同町では雨がしみ込まないようシートを敷き、土砂の下の応急処置を施している。砂山の下には十四戸の家屋があるが、同所農業、杉沢昭雄さん(五十九)は自宅が地震で二つに割れ、基礎が大きくずれ、基礎が土に沈み、車庫に倒壊しているが、漬物小屋が砂に押し込まれている。このまま雨が降り続けば、いつ崩れるか心配だ。いま家を修理しているが、また修理しなくてはならなくなるのではと恐怖におののいている。

仮設住宅棟数は、能代市が八十二棟、八竜町が各敷地内に十五棟、八森町が二棟、規模は十二一平方メートル、七坪で二層の居間と台所、トイレなどが設けられる。電気、水道はつくが、ふろはない。三市町のうち能代市では五月三十一日から工事に着手、五日までに完成、きょう六日から入居できる。同市の場合、四百五十六棟が全壊したが、入居希望者は九世帯だけ。他の家族は親類宅に身を寄せたり、倒壊を免れた建物などに移って生活しているものとみられる。



# 特産メロン畑に水を

## 八竜町浜口地区



1号導水管の仮設パイプ敷設工事が進められているが(八竜町大口で)

八竜町浜口地区の砂丘畑に用水を運ぶ一号幹線導水管の仮設工事が急ピッチで進められている。同導水管は、日本海中部地震の被害で給水ストップとなっているが、水がなければ浜口特産のメロンが全滅してしまうため、浜口土地改良区(松森園太郎理事)が導水管の仮設を進めているのも、一両日中には一応工事が終了する見込み。しかし、今後さらに他の幹線導水管や畑へ通ずる給水管の点検も行わなければならないが、完全に給水されるのはいつになるか、予想がつかない。

# 急ピッチで仮設工事 頭の痛い導水管復旧費

## 町民にプールを開放

### 八竜中海水浴場の震災で

八竜町公民館は、二十六日(約一カ月間、同町八竜中学校プールを町民に開放することになった。日本海中部地震による津波で釜

谷浜海水浴場が全シーズン利用できなくなったことに対応したもので、町民から喜ばれそうだ。同町は、熊代町本部内でも遠浅の海水浴場で知られる釜谷海水浴場を有し、毎年シーズンになると町内外の海水浴客でにぎわう。また、太谷地、追泊、芦崎は、小学校の児童海水浴場ともなり、児童生徒ばかりでなく、地区住民が利用している。ところが、五月十六日の日本海中部地震による津波で海底に深みが出来たほか、砂浜には漂着物が散乱しているため、同町観光協

# まだ体育館が使えない

## 床は陥没、敷地に亀裂



亀裂が走り、浮き上がった八竜中の浄化槽

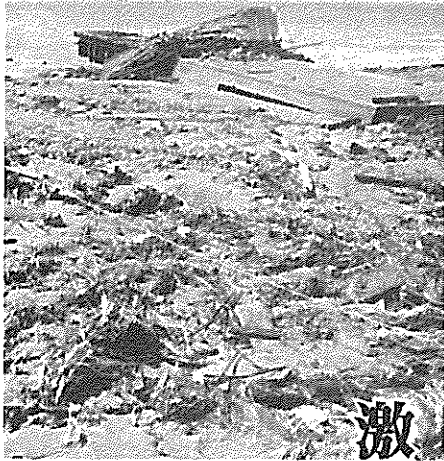
八竜町災害対策本部は、メロンの開拓地帯で導水管などと、地震の被害額は五十四億六千九百万円、特産 林漁業・畜産関係が二十三

## 八竜町補修工事も手つかず

日本海中部地震、津波の被害を受けたほか、住居に大きな被害を出した山本町八竜町は、町内の小、中学校にも大きな被害を及ぼしている。八竜中、湖北小では体育館が浮き上がった水洗トイレが使用不能になり、簡易トイレを設置しているほか、浜口小は体育館の床が陥没し、使用できず、町ではほぼ補修待機の方針だが、激甚災害地の指定にならなければ財政負担が大迫い、激甚指定の有無に気をもんでいる。(関連記事3面)

いつ? 激甚地指定に 日本海中部地震

使えず、八竜中は千鶴、青も甚大で、全壊百二十九戸、半壊百五十九戸、一部破損三百四十七戸、床下浸水四戸と計百五十九戸が被害を受け、二十一億五千五百万円に達する被害額を受け、町内全戸の三割近くが被害を受けた。激甚地帯の浜口地区が主で、被害のなかにはメロン畑での住家もやられ、二重災害となった人が多く、メロンの栽培に追われ、住家が手こずっていない農家が目につく。学校被害は、八竜中、湖北小、浜口小、同澤分校など町内の小、中学校全部で出た。共通しているのは浄化槽が浮き上がり、トイレが使えないこと。八竜中では浄化槽のようば亀裂が走り、槽がゆがみ、約三十センチ出た。このため、水洗トイレは



▲釜谷浜にて

秋田沖を震源とした今回の地震は、これまでの日本海側で起こった地震の中では最大級のマグニチュード七・七を記録しました。このため、県内の各地では軒並み震度五の激震に見舞われ、多くの被害が出ました。

本海側では津波が発生、日本海側では大きな津波はないという認識を助長されたことが上げられます。

この度の日本海中部地震によって被災された方々に心から御見舞い申し上げます。

# 激震と津波襲う

## 日本海側では最大級



▶全壊した家屋

第1報

# 魔の5月26日

## 日本海中部地震

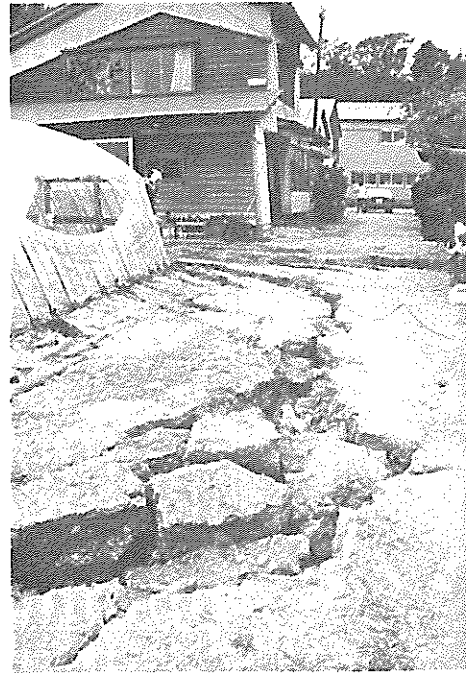
### 災害対策本部を設置 仮設住宅15戸を建設

地震による被害が予想以上に大きいことから、県では、緊急に「日本海中部地震八竜町災害対策本部」を設置し、関係機関と連携して状況報告と今後の検討を始めました。

### 町内の被害額五十五億円に 死者四人行方不明者一人 家屋の全半壊三百四十八棟

八竜町史始まって以来の大地震——五月二十六日正午、日本海で発生した日本海中部地震はまだかつてないほどの爪痕を残しました。本町では浜口地区を中心に死者四人、行方不明者一人、全半壊三百四十八棟、田畑の流出・埋没九十六・一haの被害が出ました。

五月二十六日正午、秋田沖で発生した地震。本町では浜口地区を中心に死者四人、行方不明者一人、全半壊三百四十八棟、田畑の流出・埋没九十六・一haの被害が出ました。



▲各所で陥没や地われが発生(写真は芦崎)

# 町の被害額五十五億円に

## 死者四人行方不明者一人

## 家屋の全半壊三百四十八棟



# 復興の息吹き



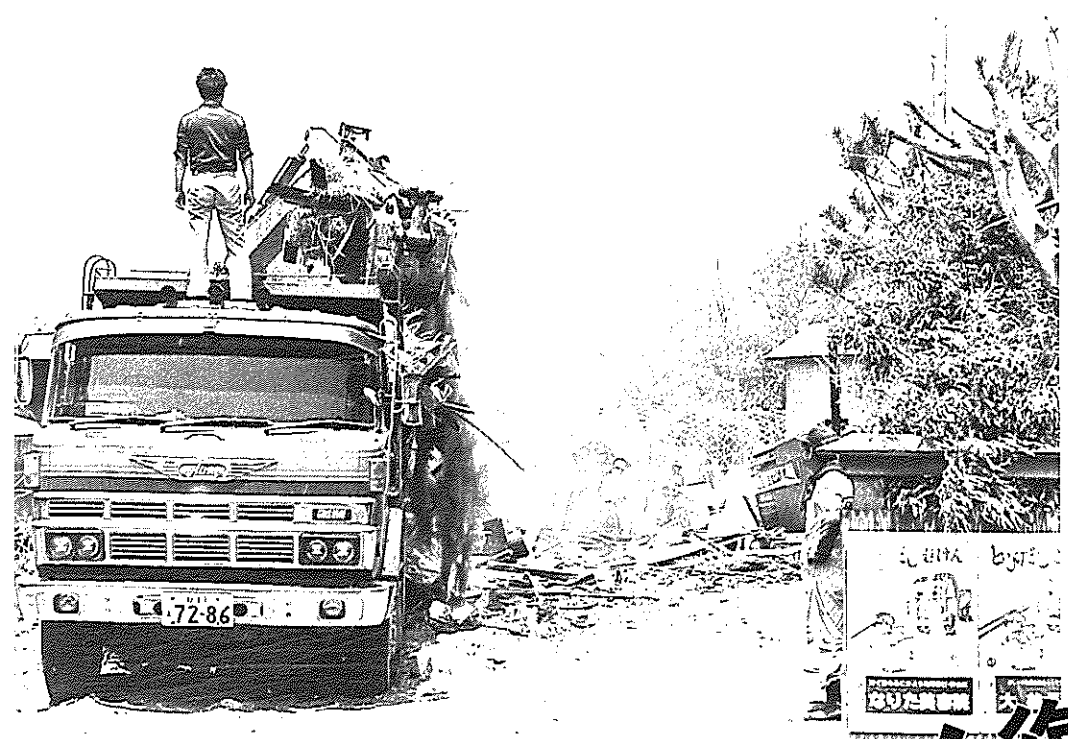
△町内の各所で基礎の打ち直し工事が

町民が被災に呆然自失したのは災害発生の1日だけでした。次の日から頻繁に、無気味に襲ってくる余震の中で、復興の槌音が響き渡ったのです。底知れぬ人間の気概と能力が示されています。しかし、この大災害によって傷つけられた町の経済の亀裂は大きく、苦難の道が続くことでしょう。復興は長い時間と心身の消耗が強いられます。

着々と進められる地滑り防止工事（芦崎）



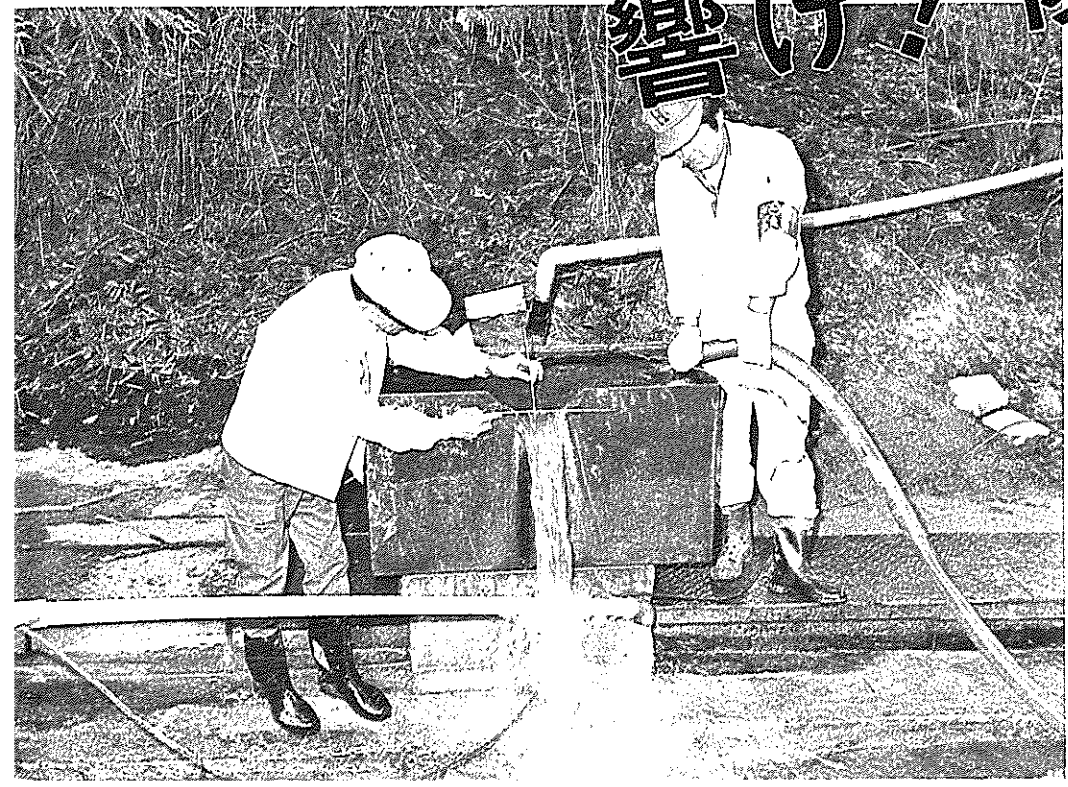
△稲の補植面積は57.5haに



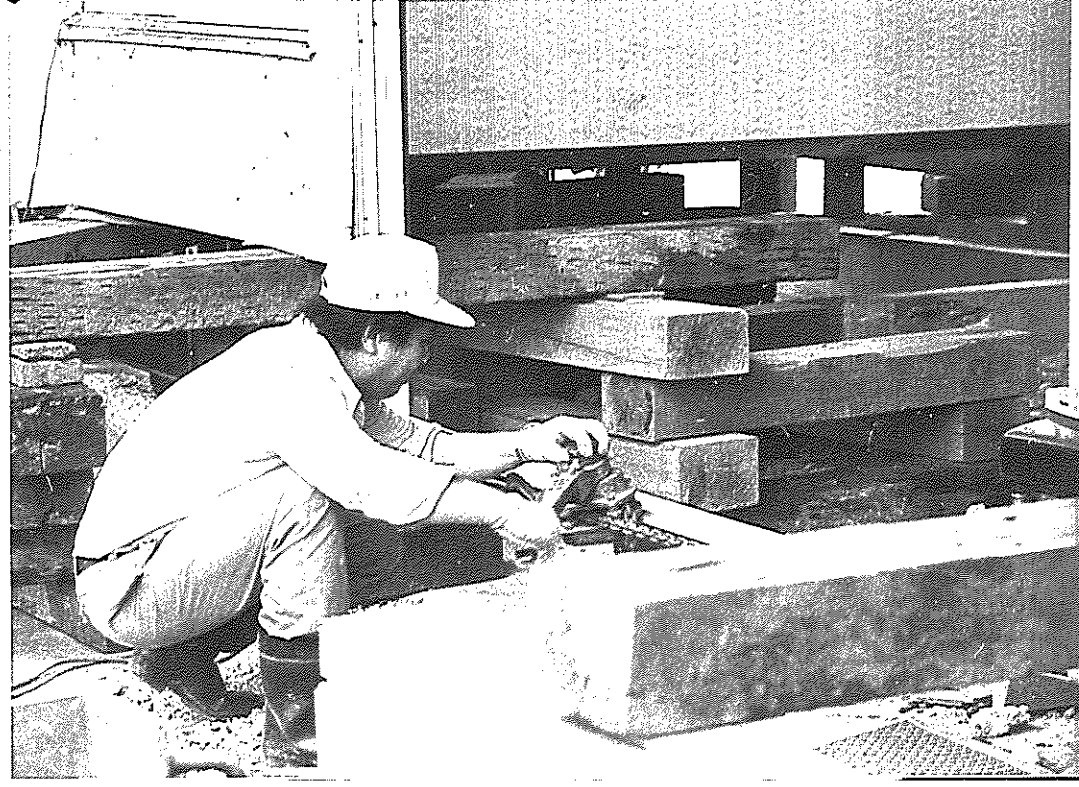
◁壊れた家屋のかたづけ



# 響け！復興の槌音



▷家を上げて基礎を修復  
◁簡易水道の修理作業



# 住民の対応

アンケートから

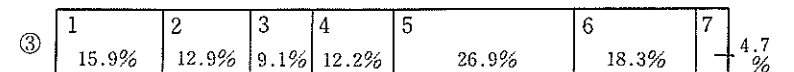
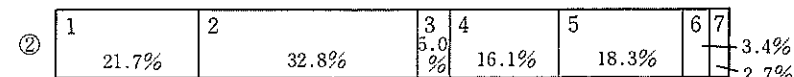
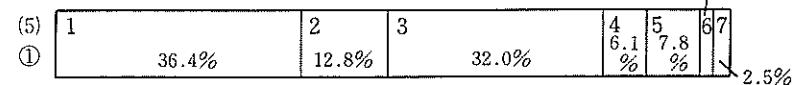
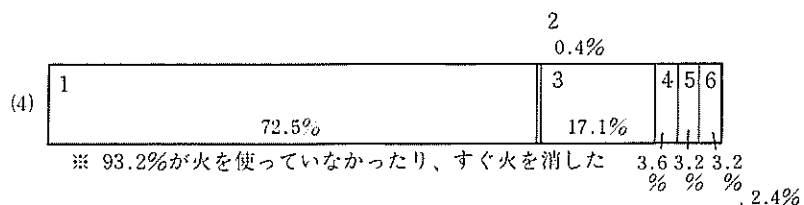
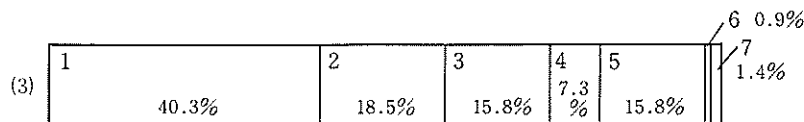
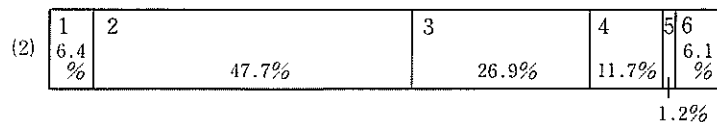
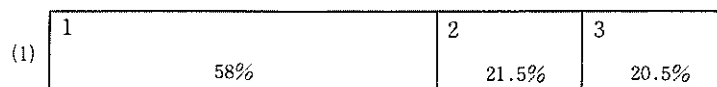
地震発生時の住民の対応を知るため、全戸からランダム式に892世帯を抽出し、一般、農業、住宅に関するアンケートを実施しました。この内、回答が寄せられたのは337世帯で、回答率は37.8%でした。アンケート結果

を参照して、今後、何がしかの参考にしていただければ幸いです。  
※農業、住宅に関するアンケートは浜口地区のみ実施しました。

## 質問

- (1) あなたは地震が発生した時どこにいましたか。  
1. 家(建物)の中にいた 2. 屋外にいた 3. その他( )
- (2) あなたはその時どのような行動をしましたか。  
1. 何もする必要を感じなかった 2. 意識的に身の安全を考えた  
3. 意識して戸外へのがれた 4. 無意識に戸外へとび出していた  
5. 本能的に行動したのでよく覚えていない 6. その他( )
- (3) あなたは地震の最中何を一番不安に思いましたか。  
1. 家族や身内の安否 2. そばの建物などの倒壊  
3. 生命の危険などに対する恐怖 4. 自分の家財の被害  
5. 火災の発生 6. 道路、橋などの破壊による交通マヒ  
7. その他( )
- (4) あなた(家族)は火気をどうしましたか。  
1. 使用していなかった 2. 使っていたが消す必要を感じなかった  
3. 危険だと思ったので消した 4. 無意識のうちに消していた  
5. とても余裕がなかった 6. その他( )
- (5) 一応揺れがおさまった後のあなたの行動の順序は。(3番目まで)  
1. テレビ、ラジオをつけた 2. 電気、ガス、水道を確認した  
3. 自宅へ急いで帰った 4. 電話をかけた  
5. 自分の家財の被害を調べた 6. 自宅以外の被害を調べた  
7. その他  
順序( )

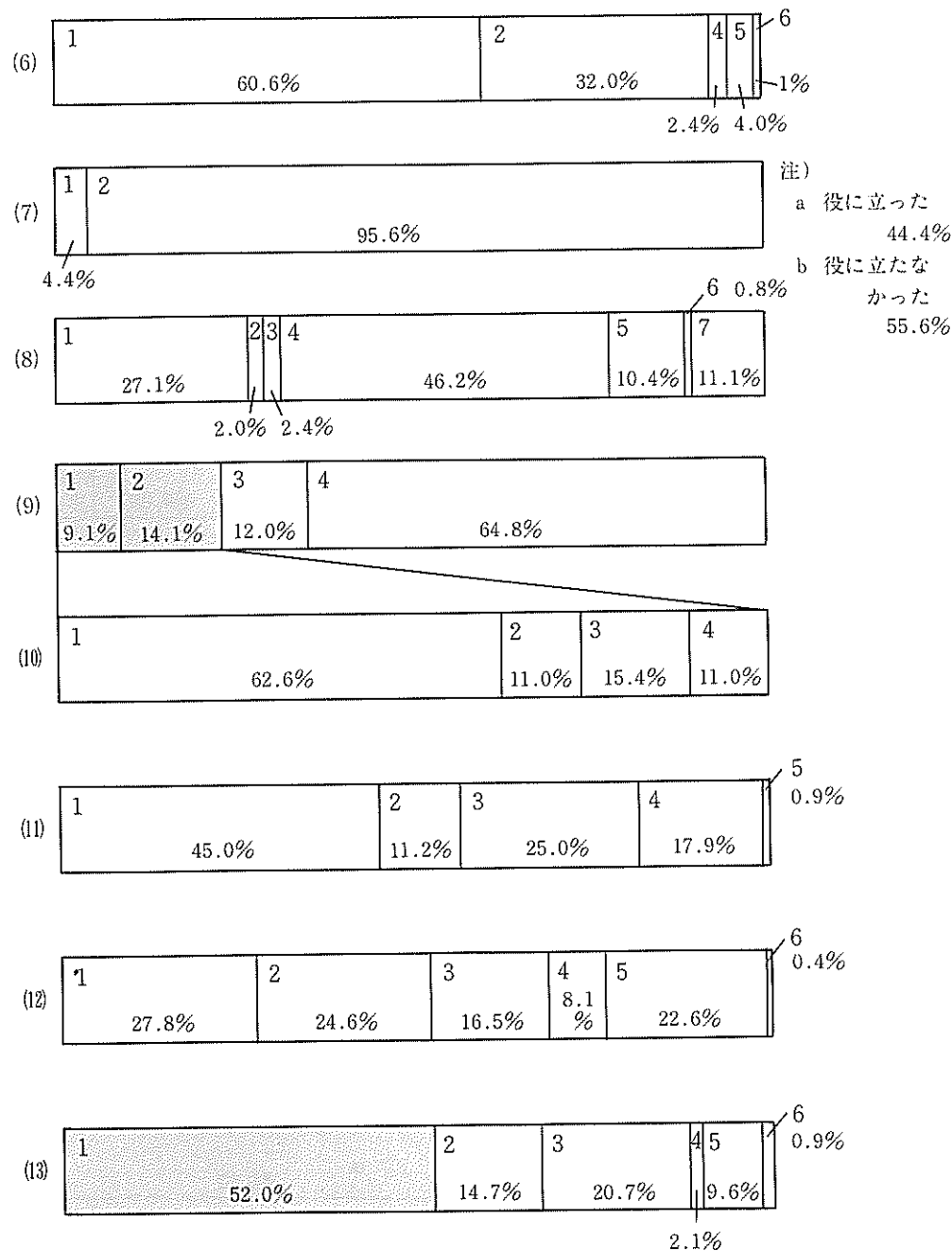
## 回答



## 質 問

- (6) 最も頼りにした情報源は何ですか。  
 1. テレビ      2. ラジオ      3. 無線  
 4. 関係者の話    5. 近所の人と話    6. その他 ( )
- (7) 非常持出品の準備をしていましたか。していた人は役に立ちましたか。  
 1. していた (a. 役に立った    b. 役に立たなかった)  
 2. していなかった
- (8) 地震後1～2日、一番困ったことは何ですか。  
 1. 水      2. ガス      3. 電気      4. 電話      5. 住宅  
 6. 食糧    7. その他 ( )
- (9) あなたは津波が来ると思いましたか。  
 1. 来ると思った      2. 来るかもしれないと思った  
 3. 来ないと思った    4. まったく考えなかった
- (10) 上の質問で1、2を選んだ人はどのような行動をしましたか。  
 1. 別に何もしない    2. 避難した(するように言った)  
 3. 見に行った      4. その他 ( )
- (11) 今後の地震に備えておくべきだと強く感じたことは何ですか。  
 1. 避難方法や場所を決めておく    2. 非常持出品  
 3. 家屋の強度の確認                  4. 家具等の固定  
 5. その他 ( )
- (12) 今回の地震で何を教訓されましたか。(2つまで選んで下さい。)  
 1. 火の始末                  2. 津波の発生                  3. 家屋の耐震設計  
 4. 非常持出品の準備    5. 日常からの心得    6. その他 ( )
- (13) 防災対策、町に望むものは。  
 1. 警報体制の充実                  2. 町民の防災意識の高揚  
 3. 避難場所の整備、その住民への周知徹底  
 4. 応急物品の配付                  5. 救済対策の完備  
 6. その他 ( )

## 回 答



# 農 業

## 質 問

(1) あなたの耕作する田畑は陥没あるいは隆起等の被害を受けましたか。

1. 被害を受けた

田 ( 反歩) イ. 陥 没  
 ロ. 隆 起  
 ハ. その他 ( )

畑 ( 反歩) イ. 陥 没  
 ロ. 隆 起  
 ハ. その他 ( )

2. 被害を受けなかった

※ 以下の質問にはメロン栽培農家のみお答え下さい。

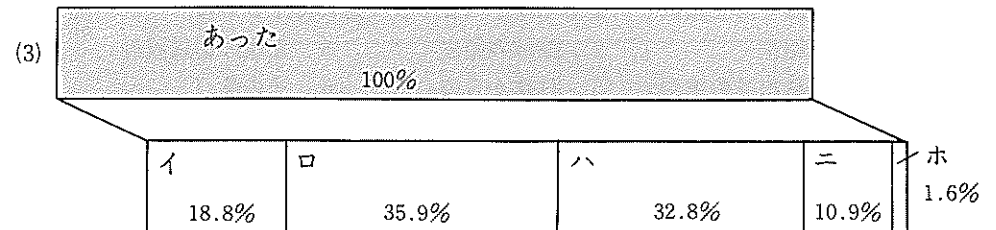
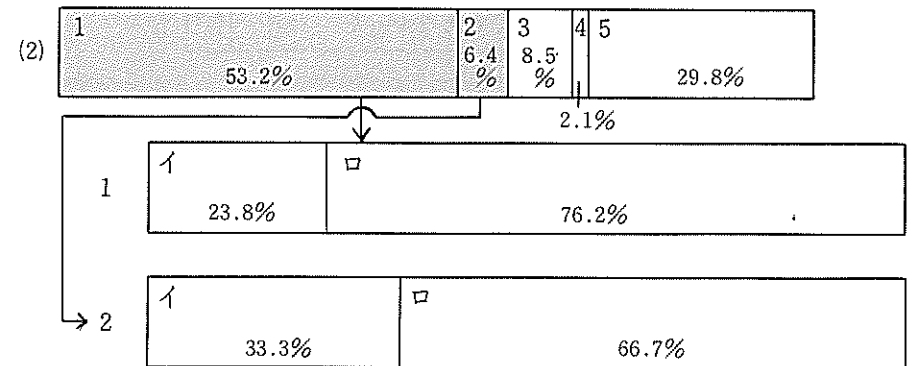
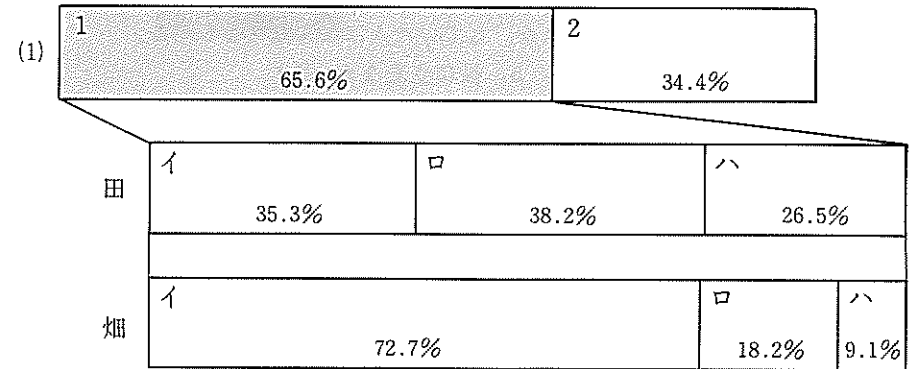
(2) 畑地かんがい施設が被害を受け、かんがい不能となりましたが、あなたはどのように対処しましたか。

1. 自分で井戸を掘った (イ. 十分であった      ロ. 十分でなかった)
2. 業者から井戸を掘ってもらった (イ. 十分であった      ロ. 十分でなかった)
3. 土地改良区の応急工事を待った
4. 以前からの井戸を利用した
5. 水をタンク等で運んでかん水した
6. そ の 他 ( )

(3) 一時期かん水できなかつたためにメロンの生育、収穫に影響がありましたか。

1. あった (該当する番号をすべて囲む)  
 イ. 収穫時期が遅れた      ロ. 玉が肥大しなかった  
 ハ. 収量が下がった      ニ. 品質が低下した  
 ホ. 収穫皆無になった ( a )
2. なかつた

## 回 答







## わが家の耐震診断

地震対策でまず必要なことは、わが家が地震に耐えられるかどうかを知ることです。そこで、わが家の安全を知るための耐震診断が必要になります。

木造住宅の耐震診断 (鉄筋住宅などは建築士等の専門家に依頼して下さい)

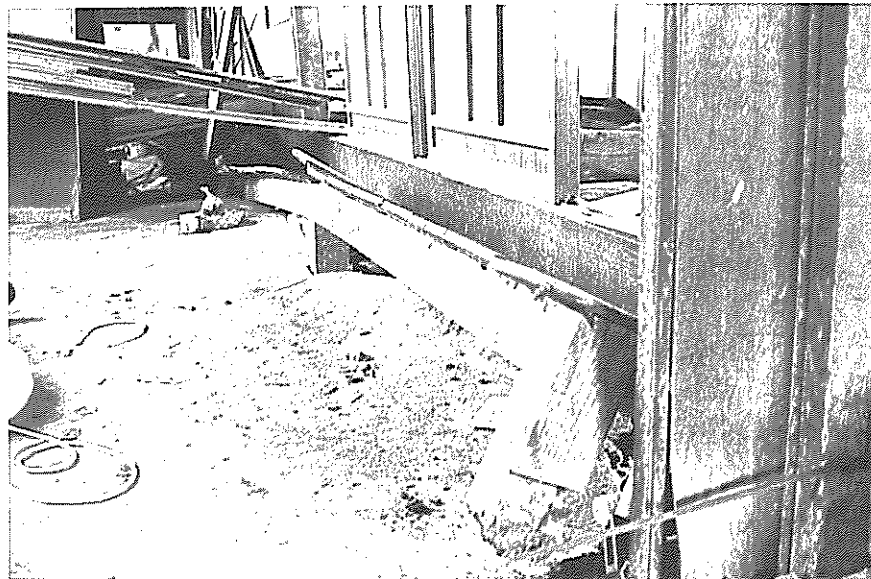
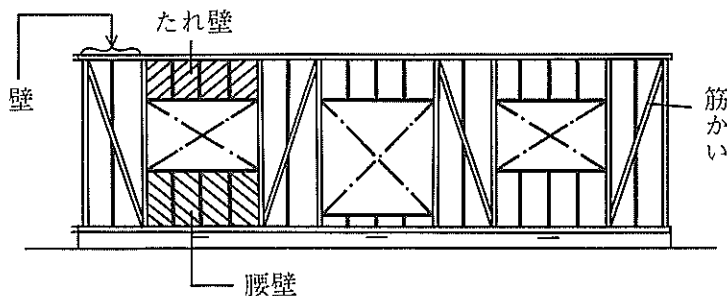
自家診断カルテ (P47) を利用して次の手順で行って下さい。

ア. 壁の配置がわかる平面図を「平面図作成表」(P48) に4メモリを1間として書く。

イ. 1階の建築面積(2階建の場合も1階の建築面積)を坪で計算する。

ウ. 「自家耐震診断」のa~gまでの項目の評点を算出する。この場合e欄の壁率の算出にあたっては次のことに注意する。

- 壁とは、床から天井まであるものをいい、途中に窓があるもの(腰壁、たれ壁)は壁とみなさない。
- 壁の長さが0.5間未満のものは壁の長さに入れない。
- 「壁の量」の計算を行う。この場合桁行方向(平面図の長辺方向)と梁行方向(平面図の短辺方向)を別々に合計し、少ない方を「壁の量」とする。
- 壁率は  $\frac{\text{壁の量(間)}}{\text{1階の建築面積(坪)}}$  によって計算する。



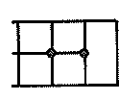
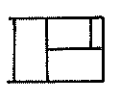
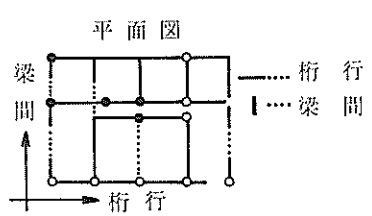

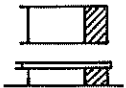

エ. 総合評点(E)を算出する。a~gまでの7項目の評点を掛け合わせる。  
( $E = a \times b \times c \times d \times e \times f \times g$ )

オ. 診断結果

総合評点(E)が高ければ高いほど耐震性が高いわけですが、総合評点の評価は次のとおりです。

- $E \geq 1.5$       まず倒壊しない      必ずしも屋外に避難する必要はない。
- $1.5 > E \geq 0.5$       精密診断を要する      専門家(建築士、大工さん等)に現地調査をしてもらい、耐震強度を確認して下さい。
- $E < 0.5$       倒壊のおそれが極めて高い      出来れば補強したい。

# 自家耐震診断カルテ

欄	項目			評点	解説	
	構法	地盤				
a	耐力壁式	良い	普通	悪い	(構法) 大黒柱式 	耐力壁式 
	大黒柱式	0.9	0.8	0.6		
	耐力壁式	1.2	1.0	0.9		
b	屋根葺材		軽い	重い	重い屋根 瓦葺、カヤ葺等 軽い屋根 鉄板、スレート等	
	平家	1.2	1.0			
	2階建	0.8	0.7			
c	4隅に壁	1.0				
	1隅が両方向とも開口	0.9				
	1面全開口・2面が両方向開口	0.8				
	2面全面開口	0.7				
d	筋かい有り	1.5		建物のどこかに筋かいがあれば筋かい有りとみなす		
	筋かいなし	1.0				
e	見かけの壁率が0.05未満	0.2		平面図 		
	0.05以上 0.15未満	0.4				
	0.15 " 0.25 "	0.7				
	0.25 " 0.35 "	1.0				
	0.35 " 0.45 "	1.3				
	0.45 " 0.55 "	1.7				
	0.55 " 0.65 "	2.2				
0.65以上	3.0					
f	増築せず	1.0		増築せず 	1階のみ増築 	2階を増築 
	1階のみ増築	0.9				
	2階を増築	0.8				
g	老朽化していない	1.0		建物全体から判断し、特に北側の台所、風呂場等の土台、柱礎部分を診断する。		
	腐蝕著しい	0.8				
総合評点		$E = a \times b \times c \times d \times e \times f \times g$				

建 築 面 積	(坪)	壁 の 全 長	桁 行	(間)	見かけの壁率 壁の全長 建築面積	桁 行	(間/坪)	左端の小さい方の壁(間/坪)
			梁 間	(間)		梁 間	(間/坪)	

平面図作成表

診 断 結 果  
の 判 定

E の 値	判 定
$E < 0.5$	倒壊のおそれが高くて高い。
$0.5 \leq E < 1.5$	専門家の精密診断を要する。
$1.5 \leq E$	まず倒壊することはない。

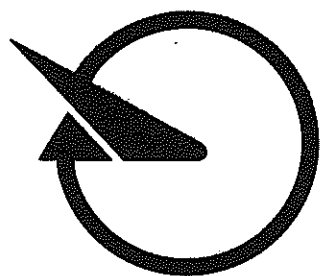
# 鎮魂賦

昭和五十八年五月二十六日君は日本海中部地  
震大津波の怒濤に散り給う。

み魂よ滄海の胸に抱かれ安らかに  
眠りたまえ。







---

マグニチュード7.7

魔のつめ跡を追う

1983年5月26日発生  
日本海中部地震の記録

1983年9月15日 発行  
編集・発行／八竜町役場  
印刷・製本／秋田活版印刷(株)

---